明治四十三年五月二十日發行

（明治二十一年本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百四十六號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衞生雜誌

第二百四拾六號目次

大日本婦人衛生會

總會及懇親會

豫告致置候本會の總會は愈〻本月二十八日をトし午後一時より懇親會を兼ね小石川區白山御殿町植物園内に於て擧行致候間此段御通知申上候也

尙ほ當日は園内觀覽の外餘興等も有之筈に候。

詳細の事は追て御案内狀差出可申候。

六月例會は裏面廣告之通開催可致候。

明治四十三年五月

私立大日本婦人衛生會

例會

來る六月四日（第一土曜）午後一時半より神田區一ツ橋通り共立女子職業學校内に於て例會を開き左の講話有之候間御知友御誘引御來會被下度候也

一。チーフス豫防の心得　醫學博士　二木謙三君

一。老若男女　ドクトル　富士川游君

明治四十三年五月

私立大日本婦人衞生會

本會にては、これまで主として會員及びその同伴者のみ講話を聽き居り候處、本會の趣旨に本づき、益〻廣く衞生思想の普及に勉め度く、且つ東京に於ては、近頃腸窒扶斯の如き惡疫しきりに流行致し、昨今に至り愈〻猖獗を極め居り候へば、此度は廣く會員外の人々にも聽講を許し大切なる衞生上の心得を、なるべく通俗的に面白く聞かしめ、日常保健の資こ致し度き考に候へば、會員の方々は申迄もなく、何人にても御知合の御婦人を、なるべく多數御連立ち御來會被下度奉希望候也

但し本會の規則に依り男子は御斷り致候

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるもの〻如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす玆に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月　首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治卅二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを認みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る　幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　總會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　每會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑托し會員をして隨意聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　本會の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし附後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし　支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし●雜件

第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄贈する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を簿冊に登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（麴町區富士見町郵便取扱所宛）振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢〻會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地　私立大日本婦人衛生會

○役員姓名

東伏見宮依仁親王妃

總裁　周子殿下

會長　侯爵夫人　鍋島榮子

副會長　男爵夫人　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
同　羽田三緒子
同　岡田德子
同　高木錄子
同　山本多穗子
同　松平芳子
同　三浦敬子
評議員　石川貞子
同　岩下ゆか子
同　濱田捨子
同　長谷川仲子
同　服部繁子
同　仁禮壽賀子
同　西升子
同　土肥多越子
同　緒方悅子
同　岡山とし子
同　小川孝子
同　男爵夫人　加藤鈴子
同　片山龜子
同　吉武輝枝子
同　丹波貞子
同　高橋孝子
評議員　田村きよ子
同　男爵夫人　南部殷子
同　中濱芳子
同　山口貞子
同　子爵夫人　松井正子
同　岸澄子
同　三宅藤子
同　宮本樂子
同　宮下咲子

●支會、新潟、山形、宇都宮、高崎、米澤

〰〰〰

本會特別贊成員

（いろは順）

醫學博士　入澤達吉君
理學博士　石川千代松君
醫學士　石原久君
醫學士　石原喜久太郎君
理學博士　飯島魁君
ドクトル　飯盛挺造君
醫學博士　伊藤隼三君
ドクトル　伊澤信平君
醫學博士　伊東祐彥君
色川圀士君
岩井禎三君
藥學博士　石津利作君
醫學士　磐瀬雄一君
長谷川泰君
法學博士　鳩山和夫君
萩原瀾四郎君
醫學博士　林春雄君
原胤昭君
醫學士　橋本左武郎君
醫學博士　濱田玄達君
男爵　濱尾新君

醫學博士　芳賀榮二郎君
西田敬止君
ドクトル　西山信光君
本田增次郎君
醫學士　鳥居春洋君
醫學博士　土肥慶藏君
醫學博士　遠山椿吉君
醫學博士　大澤謙二君
醫學士　大野豐太君
醫學士　大西秀治君
子爵　小笠原長生君
ドクトル　小此木信六郎君
醫學博士　岡田榮吉君
醫學博士　岡田和一郎君
恩田重信君
醫學博士　緒方正規君
醫學博士　大澤岳太郎君
醫學士　渡邊房吉君
醫學博士　加藤照麿君
男爵　加藤弘之君
醫學士　河野衞君
醫學博士　河本重次郎君
醫學博士　金杉英五郎君
醫學博士　片山國嘉君
醫學士　賀古鶴所君
醫學士　岡田龜一郎君
醫學士　唐澤光德君
醫學士　平野榮君
醫學士　米山彥郎君
橫井忠國君
醫學博士　高橋順太郎君
男爵　高崎正風君
高嶺秀夫君
醫學士　高田畊安君
ドクトル　高山紀齋君
藥學博士　田原良純君
醫學博士　田代義德君
醫學士　田村光盛君
醫學士　田村化三郎君

醫學士　竹中成憲君
藥學博士　丹波敬三君
法學博士　高木豐三君
醫學博士、男爵　高木兼寬君
理學博士　坪井正五郎君
醫學博士　土田卯三郎君
男爵　辻新次君
醫學博士　中濱東一郎君
醫學博士　長與稱吉君
藥學博士　長井長義君
男爵　南部甕男君
醫學博士　能勢靜太君
醫學博士　久保猪之吉君
醫學博士　栗本東明君
醫學士　栗本庸勝君
醫學博士　隈川宗雄君
醫學博士　吳秀三君
醫學博士　山田鐵造君
醫學士　山田弘倫君
醫學士　山根正次君
ドクトル　山上兼輔君
ドクトル　松山陽太郎君
丸山良四郎君
ドクトル　富士川游君
布施正顯君
男爵　後藤新平君
醫學士　古川榮君
小高良造君
小西信八君
醫學士　寺田織尾君
醫學士　寺山豐作君
寺田勇吉君
醫學博士　朝倉文三君
子爵　秋元興朝君
足立寬君
ドクトル　朝山義六君
醫學士　淺田決君
醫學博士　佐藤達次郎君
醫學博士　佐々木政吉君
醫學博士　榊順二郎君

醫學博士　榊保三郎君
醫學博士　櫻井恒次郎君
醫學博士　佐藤三吉君
齋藤清文君
醫學士　笹川三男三君
醫學士　櫻井郁二郎君
ドクトル　佐藤迪雄君
醫學士　佐藤德齋君
醫學士　浮崎寬制君
ドクトル　佐伯理一郎君
醫學博士　木下正中君
醫學博士　桐淵鏡次君
醫學博士　木村德衞君
醫學博士　北島多一君
醫學博士　北里柴三郎君
醫學士　北村精造君
醫學博士　北川乙治郎君
ドクトル　菊池循一君
醫學博士　三輪信太郎君
醫學博士　宮本叔君
宮本仲君
宮川保全君
理學博士　箕作佳吉君
水原漸君
醫學博士　三宅秀君
醫學博士　三浦謹之助君
醫學博士　三島通良君
醫學博士　三浦守治君
島田三郎君
ドクトル　志村武麿君
醫學博士　島村俊一君
ドクトル　日高昂君
醫學博士　弘田長君
伯爵　土方久元君
醫學士　百瀨玄溪君
醫學士　森田正馬君
文學醫學博士　森林太郎君
醫學士　澄川德君
ドクトル　羽田[illegible]附君

婦人衛生雜誌第二百四十六號
（明治四十三年九月二十日發行）

講演

月經の話（承前）

醫學士　河島右一

次に月經は十六歲頃になつて來ますのが普通でありますが、それが十八歲から二十歲、二十三歲、二十四五歲位になつても月經を見ないと云ふことがある、其の場合に自分のお友達は已に月經があつたけれども、自分は無いと云ふので、聊か不安の念を懷き恐怖心を抱いて居られると云ふことは月經の無い方の御經驗の一であらうと思ひますが、兎角非常な恐怖心を懷くのであります、夫れであるから此の時代にまだ月經がないと云ふ場合には、自分は月經がないが何う云ふ譯で無いのであらうと云ふ、一の智識を修めてお出でると云ふことは有益な事でないかと思ふ、何う云ふ譯で月經が遲く來るのであるか、其の原因として擧げますと、第一に心身の榮養不良である、皆さん方は非常に肥つて、さうして元氣さうにやつて居らつしやいますけれども、月經の無い方は非常に瘦せて榮養が不良である、さう云ふ點が先づ第一の原因、夫れと其時代に非常に重い病氣に罹つて未だ十分に身體が恢復しないと云ふ場合には月經が却々來ないのであります、夫れと今度は局部の病氣で卵巢が萎縮して仕舞ふ、前のは早く發達するのであるが、今度は其の反對に卵巢が萎縮して其の機能が十分に行かない、其爲に月經の遲れる事がある、又子宮の病氣として種々なる病氣が起つて、其爲めに來ない事がある、夫れから畸形と云ふ內部生殖器が色々缺けて居る場合があつたり、或は夫れが重複して居る、さう云ふ其の畸形に依つて來ない

事がある、さう云ふ風な原因から來ないのみならず色々な症狀が起つて來る、それはどう云ふ風な症狀が起つて來るかと云ふと、第一眩暈がする、頭痛がする、便秘をする、肩が凝る、或は定期的に毎月一回を定めて十五日とか二十日とかになると鼻血が出て止まらない、或は咽喉から血が出て困る、痔の出血をする、或は腸の出血をする、或は歯の出血をするとか云ふやうに、定期的に出血をする事がある、甚だしきは其の當時に非常に惡寒がする、或は發熱をする、何だか知らないが月に一回發熱する、何だか知らないが月に一回だけ惡寒がして困ると訴へる人がある、又一異例としては甲狀腺が肥大する、甲狀腺は御承知の通り頸部の前の下の方の鎖骨に接した所の腺であります、夫れが非常に腫れて仕舞ふ、月經がなくなつて、大抵月經のあるべき時期になると腫れて、其の時期が去ると普通の身體になつて仕舞ふ、是は私が實驗した事でありますが、二十二歳になる御婦人で、二十二になつても月經が無い、けれども二三年前から毎月月半ばに聲が涸れて、どうしても聲が出ないで氣分が惡くつて困る、さうして喉が大きくなつて、其の間はどうしても寢て居なければならぬと云ふので、夫れを見ますると、非常に甲狀腺が腫れて居る、甲狀腺が膨大になつた爲めに聲帶が壓迫され聲が出なくなつた、併しそれが或る期間を過ぎると全く去つて仕舞ふ、斯う云ふ例がある、種々な原因と種々な症狀があるから、さう遲く月經が來る方は、其の原因症狀を十分に詮議して其の原因が何處に在るかと云ふ事を御調べになつて、適當の療法を施されると云ふ事が必要と信じます。

次に月經が遲くても早くても、月經が參りましてからの後の處置はどうであるかと申しますと、前にも申した通り人に依つて違ふ、早く來る人も遲く來る人もある、又期間も一週と云ふのが三日位になつたり四日になつたり、其の期間にも多少がありますが、量も多い事もあり少い事もある、又月經が參ると參

りませぬことに就ては異例か澤山あるのでございます、私共の經驗した方でも、寄宿舎生活をして御出の御方が、寄宿舎に居る時は月經が一寸もない、半年でも一年でもない、家へ歸ると、田舎に居ると月經が毎月ある、さう云ふ人もあります、又是までは少しもなくて、學期試驗の前になると月經があると云ふ風なお方もあるのであります、又演劇を見に行くと月經があると云ふ人もあります、夫れから又是は嘘かとも思はれますけれども、實際あつたので、髪を洗ふと必ず其の時には月經がある、あるがそれは續かない、髪を月に一遍洗へば一遍しかない、三遍洗へば三遍とも一日月經を見る、さう云ふ風にいろ／＼と參りまする狀況に於て變化があるのでございます。

症狀はどう云ふ風に來るかと云ふと、是はない方もありますけれども、有ることすれば非常な事がある、其症狀は同じ事を繰返すやうですが頭痛がする、肢痺がする、便祕がする、或は腹が痛む、非常に耳鳴がする、肩が凝る、動悸がする、非常に眠むたくなる、或は物が食べられなくなる、下痢をする、尿利が頻くつて殆ど膀胱加答兒ぢやないかと思ふやうなことがある、其の他神經症狀としては非常に物に倦み易くなる、物事が氣にかゝる、甚だしい人になると殆ど發狂でもしやしないかと云ふ程に神經が過敏になる方があります、甚だしきは發熱をし惡寒が來る、全身に浮腫が來る　是は私の實驗ではないが全身に浮腫が來る時に顏面が紫色になつて仕舞ふと云ふことがある、殆ど臥て居なければ月經間を通過する事が出來ないと云ふやうな症狀があります。

次に此の月經の養生法はどうしたら宜いか、第一初經を見ました時の注意は御本人は固より母となるべき方々は特に注意して頂きたい、其の時に月經が參りますと、第一に支度と云ふことが必要であります、支度をして今度は出た物の始末をして行くと云ふことが必要である、何う云ふ風にして其の始末をしたら宜いか、是は各國々の生活狀態の變化風習が

あり習慣が異りますが、大抵局部に物を當て置くことと云ふことになつて居ります、此處は前にも御斷り申して置きましたが、是非言はなければならぬ事でありますから申しますが習慣として物を膣腔に詰めると云ふことをする方が多いのであります、是は私共の考では是までの習慣はどうなつて居るかも知れませぬが、どうぞ此の膣腔に脱脂綿乃至他の物を詰めて血液の流出を防ぐと云ふことは全然廢めて頂きたい、此の時期は粘膜が破れて出血をするのでありますから、若しや物を入れて其の物に黴菌でも附いて居つたならば其の爲めに忽ち炎衝を起すと云ふやうなことになつて取返の付かぬことになりますから、中に物を直接に入れると云ふことは避けて頂きたいと思ひます、是等の特別の例として、或る方が月經後二週間ばかりに至つて非常に腹が痛くて、下り物がして困ると云ふので、診て貰ひたいと言つて來た方がありました、其の方を内診をして見ますと、中に物を詰めた其の遺殘物があつて、夫れが故障をして炎衝を起して痛むと云ふことが分つたのであります、是等は其の中に詰物をすると云ふことの一の弊害となつて居るのであります、夫れ故に是非御注意願いたいことは、中に物を入れる事を廢めて外に物を當て置くことにして頂きたいと思ふのであります、夫れは何う云う風にしたら宜いかと云ふと、先づ局所に直接に脱脂綿を一定の大さに切つて、夫れを二枚ばかり當てゝ、其の上に男子の下帶の如きものを拵へて前へ當てゝお置きになる、さうすると血液が出たらば其の一番下に附いて居るだけをお取換になつたならば少しも觸らないで濟むでありませう、それとさう云ふものが下腹部に附けてあると自然運動をしないやうになる、其の爲めにも是は一擧兩得の方法ではないかと思ひます、さう云うことをやつたらば一番安全であらうと思ふ。

次に學校生活をなすつた方と、家庭にお出の方とは違ひます、家庭にお出の方は何う云ふ養生法をしたら宜いかと言ひまするど、家庭にお在の時には成る

たけ過度の運動をしないやうにする、勿論勝手許に動いて居た方でありますれば、全然せぬと云ふことは出來ないが、成るたけ安靜にして居るやうにしなければなりませぬ、夫れから睡眠を十分にする、是迄は夜更しをして居つても構はなかつたけれども、月經時は比較的十分な睡眠を取る事にしたら宜からうと思ふ、であるから、毎晩十時打つたら寢るとか云ふことにして、成るたけ遲くまで起きて居らぬやうにしなければならぬ、夫れから總ての競爭事、勝負事は成べくやらぬやうにしなければならぬ、精神の關係からして競爭事をやると自然其爲めに影響を及ぼすことが多いからであります、又小說を見るとか、演劇を觀るとか云ふ事も全然廢めなければならぬ、又家事に就ての事は、夫々家庭は煩雜な事もあるのでありますが、さう云ふ煩雜な事は成るたけ聞かせないやうにしなければなりませぬ、食物は成るたけ消化し易い物を取つて、酒精性刺戟性の物を避けるやうにしなければならぬ、それならば月經時には何をしたら宜いかと云ふと、前にも申しました通り趣味の方面に向つて力を盡すが宜しい、音樂をやつて居た方は音樂をやるとか、畫を描く人であれば畫を描くとか、花を活けるとか、さう云ふ事を無心になつてやると、夫れが非常に其の人の精神身體の安靜を來す一番の良い方法だらうと思ひます。

次に學校生活をして居る方、寄宿生活をして居る方はどうであるかと云ふと、是も亦同じことでありますが、過勞と云ふことを避けなければならぬ、又競爭をする事がありますが、それも避けなければならぬ、又體操科はどうかと云ふと私の考では全然廢めた方が宜いと思ふ、近來は其事に就いて皆さんが御注意なさつて、月經が來たらば、其事を通ずると體操を休ませると云ふことになつて居ります、是は眞に結構な事であるけれども、モウ少し進んで勵行して頂きたいのであります、或る方に聞いて見ますると、月經と云ふのが嫌ひである、又惡いと云ふ習慣に制せられて、月經があつたらお仰しやい、其

時には休ませますと云ふことになつて居ても、私は月經でございますと進んで言ふ人は少ない、少し位苦しくても體操をやつて成るたけ月經と云ふことは言はずに濟ますと云ふ風がある、夫れは大變いかぬ事であります、風習と云ふことに拘泥してさう云ふ事をすることは決して宜いことではない、それで私の考では、學校の職員の方々、受持職員と云ふものがあれば、其の方が自分の受持つて居る生徒の月經の日附を書いて置いて、其日が來たらば、あなたは體操をお休みなさいと先生の方から持出した方が一番安全だらうと思ひます、體操は身體をよくする爲めにやるのに、體操をした爲めに身體が惡くなつたと云ふのでは、其の體操は役に立たないのでありますから、さう云ふ風にしたら宜からうと思ひます、夫れから試驗であります、是は年に一回か二回か三回しかないのでありますから、萬一夫れが月經時に當つたならば避けさせるやうにしたら宜からうと思ひます、何も必ず一週にやらなければならぬ理窟はない、一週間も延ばしてやれば出來るのでありますから月經後にやつた方が宜からうと思ふ、其他身心の休養を十分になさつた方が宜からうと思ふ、で此家庭生活、學校生活、何れにしても遠足をするとか、汽車に乘るとか、電車に乘るとか、自轉車に乘るとか云ふことは全然やらぬ方が宜からうと思ふ、僅か一週間の間ですから、其の間は何とか繰合せをして長途の旅行などは避けた方が宜からうと思ふ、夫れから入浴はどうであるかと云ふと、是は屢々吾々の問題になつて居ります、是は私の考ではしないが宜い、又する必要がない、一週位の我慢の出來ぬことはない、一週間入らなくても宜からうと思ふ、殊に風呂と云ふものは、日本人には單獨に入ると云ふ者は少ない、多くは混浴することになつて居る、それ故に自分の汚い所を洗ふと云ふことより、他の人に迷惑を掛けはしないかと云ふ考を挾くならば、先づ慎んだ方が宜からうと思ふ、夫れとも一方には、何う云ふ關係か黴菌が入らな

とも限りませぬから、自分で消毒をして清潔にして置く位に止めて、入浴せぬ方が宜からうと思ひます。序に御注意を申上げたい事は、月經の前後には、少量の白帶下と云ふものが生理的に必ず出る、と云ふものは月經の前には粘膜の各腺が充血する、其爲めに分泌が多くなるに定つて居ります、夫れから月經の後になると、其の傷が癒る爲めに矢張り充血しなければならぬから、其の周圍の腺から分泌するに定つて居る、必ず其の前後にはさう云ふものがあるから、縱令さう云ふものが下りても決して病氣ではない、普通あるべきものであると云ふ考を御持ちになると云ふことも必要であらうと思ひます。

（以下次號）

叢談

乳房の話

「垂乳根の母が養ふ蠶のまゆごもり」などゝ、母の枕詞に『たらちね』といふ詞が用ゐられて居る。これは、乳を以て足らし育つるといふ意でありませうが、後には兩親にも通じて用ゐられ、又單にその代名詞としても用ゐられて、哺乳といへば母を思ひ、母といへば直ちに哺乳を聯想することを示し、引いては哺乳と親子の愛情との關係までが表はされて居る。實に如何なる聖人豪傑と雖も、皆母の乳房に依て育てられたので、殊にその孝心、慈愛などいふ倫理道德上の美德も亦、實に玆にその要素を見出すことゝ思はれる。然れば我邦に於ては、自ら其乳を以て小兒を育てぬ母は、尠くとも『たらちねの』と云ふ尊稱を

戴く資格がない譯である。此の如く哺乳といふことは、母たるものゝ第一の義務であるが、この義務を果たす爲には、又自然これに適當した立派な乳房が與へられて居る。これ實に人を育つる所の活ける泉であつて、この泉のよく湧くか、涸れるかは、其國家の榮枯盛衰にも影響し人類の存亡にも係はることである。これ玆に此題を掲げて、讀者諸氏の一考を煩はすことゝした所以である。

哺乳動物

此の地球上に棲息して居る動物の數も、なか〳〵澤山なもので、實に千狀萬態であるが、これを大きく分類して、脊骨の有るものと、無いもの、即ち脊椎動物と無脊椎動物とに別けることが出來る、無脊椎動物の中には昆蟲以下の諸動物が含まれ、鳥魚より牛馬等に至るまでの諸動物が脊椎動物に屬して居る、次にこの脊椎動物の中でも、胎生のものと卵生のものとがあつて、鳥や魚の如く卵を産んで、これを孵化するものもあり、魚の中でも亦鮫類の如く胎生のものもある、併し鮫類は胎生であつても其子に乳を飲まして育てるのではない、之に反して猿、牛、馬、犬、猫、鯨の如きものは、其子に乳を飲まして育てるのである、これを前の凡てのものに對して哺乳動物と稱し、人類も亦實にこの哺乳動物に屬するのである。哺乳動物の特徴としては、男女雌雄共に乳房を具へて居ることで、哺乳動物でないものは、脊椎が有つても、胎生であつても、決して乳房といふものを持つて居らぬ。

乳房の數

一回に產む所の子の數は、動物の種類に依て差があり、一度に數頭を產むものは、子宮も乳房も其數が多い。象、牛其他の反芻類、肉食獸、モグラ、チ子ヅミの如き食蟲類、鼠、兎の嚙齒類は、四個乃至十二個の乳房を有つて居り、猿、蝙蝠、馬、ナマケモノ、羊、山羊、鯨、海豚の類では二個の乳房を有つて居る。人類も亦二個の乳房が有る。元來乳房の數は、一回に產む子の數の多少に準ずるもの とすれ

ば、二個の乳房を持つて居る人が、雙兒を生むでも、別に不思議はなさそうである。それのみならず、人にも數個の乳房を有つて居るものがある、然しこれは畸形で、倘ほ乳嘴が無かつたり、二つにも三つにも分かれて居るやうなものもある。此等は珍らしい畸形であるが、副乳といふものは決して稀でない。これば、小さな乳頭、或は只其痕跡で、其人自らも氣が付かず、黒子があると思つて居るのが尠くない、併し妊娠した時に、これが多少膨れて、乳汁樣のものを分泌することがある。此の副乳は男にも女にもあるが、男女何れに多いかと云ふに、學者の説も未だ一致して居らぬ、今迄の所では、男よりも女の方に多く見ると云はれて居るやうだが、段々調べる程、男の方も多くなつて來る。其の割合はどんなものかといふに、未だ統計が不揃で隨分著しい差があるが、少ない所で百人中一人はあるやうである、最も多くなつて居る調では、百人の中に十五人以上もあることになつて居る、兎に角餘り尠ないものではない。

乳房の部位

乳房の身體に附いて居る部位も亦動物の種類に依て異つて居る。乃ち胸部に在るものと、腹部に在るものと、恥部に在るものとがある。第一の胸部に乳房の附いて居るものは、人、猿、蝙蝠、ナマケモノ、象等で、第二の腹部に在るものは、牛、羊、山羊、犬、猫などがそれであり、第三の恥部に乳房の附いて居るものは、鯨、海豚等である。斯樣に乳房の位置が異つて居るのは、自然それ〳〵の動物に於て、其子を哺乳するに最も都合のよい處に在るものと思はれる。又前に述べた副乳は何處に最も多いかと云ふに、腋の著根の所より通常の乳嘴を通つて陰部に引いた線の中の各處に在ることが最も多い、併し背部、肩峯、大陰脣、大腿などに存するものもある。而して其數も四個から六個、最も多いのは正常の乳房の上に六個、下に二個、都合八個も副乳が有つた例もある。通常の乳房の上の方に在るのが多いか、

下の方に存するものが多いかと云ふに、一般には下の方が多い、又左側と右側と、何れに多いかと云へば、左の方が多く、左側のみのものも、右側のみのものより多數だとのことである。

婦人の乳房

以上は廣く哺乳類の乳房について述べたのであるが、これより特に吾々人類の乳房について話をして見やうと思ふ。先づ婦人の乳房は、通常第三肋骨から第六肋骨の間に於て、胸の左右に位し、鉢のやうな形をして居る。而してこれを乳嘴と乳體とに區別することが出來る、乳嘴は即ち乳頭で、年齢に依ても異り又妊娠哺乳時等に於て頗る變化があるが、此處に小さな凹凸がある、此は小乳頭と輸乳管の出口である、而して乳嘴の根の處には、輸乳管を握つて居る括約乳嘴筋がある、又乳嘴の周圍には、少し赤味を帶びた輪が在る、これを乳暈或は乳輪といふのであつて、此處にも小乳頭を具へて居り、妊娠すれば色々な變化が起る。乳體は乳嘴の根の處から胸に附いて居る土臺までの所を稱するので、其の構造の大體を云へば、乳腺と脂嚢から成つて居る。乳腺は組織學の方で云ふ所の複葡萄狀腺といふて、澤山の小さい圓い袋と、輸乳管とより出來て居つて、此が又數多集つて腺葉といふ一塊を成す、つまり葡萄の房のやうなものである、この葡萄の顆の內で葡萄の甘い汁が出來るやうに乳汁が製られて、それが輸乳管を通つて外に出て來るのであるが、輸乳管は乳嘴の近くまで來ると急に膨れた處が在て、此處に乳汁を留めて置く、これを輸乳管竇と云ふて居る。

次に脂嚢といふのは、つまり脂肪の塊で、これが前にいふた葡萄の房即ち腺葉の間を埋めて居るものである。尙は乳房にはこの他に動脈、靜脈、神經が入込んで、以上の諸道具を働かして居るのである。

これが先づ乳房の解剖の概略である。

男子の乳房

乳房は元來乳汁を分泌して哺乳する爲の器官であつて、女子には十分發育して其用を爲すが、男子に於

ては只乳暈の上に小さな乳頭が在つて、二三本毛などが生へて、哺乳動物であるといふお徴だけに過ぎない。併し普通顯微鏡で以て其の組織構造を見た所では、男子の乳房でも大した差異はない、只大小强弱の差があるだけである。女子の乳房でも發育の惡いものや、老人になれば殆ど男子の乳房のやうである、それで婦人も今こそ立派な乳房を有つて、幸に其の重要なる天職を全うすることが出來るが、その貴ぶべき天分を蔑視し、哺乳を廢するやうなことになれば、矢張その美なる乳房とても萎縮してしまつて、只これは哺乳動物であつたといふ申譯だけに、その痕跡を胸に殘して、其處には荒廢を吊ふ爲に粗い毛でも生へる位の始末になるだらうと思はれる。これに反して、男子でも乳房が膨れて、それのみならず乳汁を分泌し、實際授乳して小兒を養育したといふ例もある。乃ち二十二歲の男子で、毎日一合餘も乳が出たといふものがあり。又南亞米利加の田舍に能く乳汁の出る男があつて、妻が病氣に罹つた時、五ヶ月間もその代りに小兒に乳を與へたといふ。これも同じ亞米利加で、三十二歲になる職工であつたが、妻が產で亡くなつた時、その兒を自分の乳で育てたといふことである。又或男は、やはり其妻に死なれて、止むを得ず、常に小兒を懷いて、睡く時には假に自分の乳房を吸はせて居つた所が、段々乳房が大きくなつて來て、やがて其乳を以て發育することが出來るに至つたといふ例もある。これは珍らしい事ではあるが、決して無いとは謂はれぬ、ありうべき事である。尙ほ乳腺が發育したのではないが、脂肪組織が澤山で、男子でありながら、丸で女子の樣な乳房を有つて居るものがある、斯樣なものは男子たる他の部分の發育も不完全で、且つ年頃になつても、女子に對する情が無いものである。それで昔てペードウルと云ふ人は、斯樣なものは人民の蕃殖を望むことの出來ない不具者であるから、その結婚を禁じ、又兵役を免除すべきものであると云ふた。斯の如き男子の畸形は憐むべきものである

か、女子乳房の萎縮退化は悲むべく嫌ふべきことである。

乳房の發育

前に述ぶる如く、男子の乳房も、女子の乳房も、其の組織學上の構造に於ては、大體異ならないが、女子の方は男子よりも、その腺や管の發育が凡て盛である、フランクルと云ふ人の研究した所に據れば、女子の乳腺は、既にその初生時の頃に於ても、男子の乳腺よりは發育佳良なることが認められる。併し小兒の時分は外觀上男子も女子も別に異ならないが、漸次成長するに從つて、女子の方の乳房は發育して、所謂思春期に近いて、胸廓も肩胛も腰部も身體一般に肥つて、皮膚も美しく艶々して、圓滿なる女子特有の姿を呈して、いよ〳〵妙齢の期に達すれば、其乳房も大に發育して、鐘の樣な形ちとなつて、到底男子には見る可らざる有樣となる。これに反して男子は、其身體は既に壯大に成つても乳房は却て發育もせずに、只小さな疣のやうな狀態に止まつて居るに過ぎない。

女子は一般に男子よりも、人種の特徴を表して居る事が著しいものであるから、其乳房の形ちも、人種に因て種々異ひがある、又同じ人種でも乳腺の發育仕方に由つて色々な形ちが有る。バルテルスと云ふ人は、乳房の形狀を四種に分つた、卽ち盤形、半球形、圓錐形、山羊乳房形である。乳房は成熟期を過ぐれば、通常下垂するものであるが、其年齢は色々で或は既に十五六歳で起るものもあり、或は六十歳に達しても尙起らぬ者もある、これ又人種に因て違ひがあつて、ゼルマン種族は下垂の時期が少し遲いと云ふことである、又冷水で洗へば下垂を遲くすると云ふ。これは稍餘談に渉つたが、既に懷妊し或は哺乳する時には、乳腺は益々強く發育して、種々の變化が起る、此事に就ては後に至つて改めて話す事として、玆には尙乳房の左右に違ひがあることを一寸話して置うと思ふ。

一般に右の乳房よりも、左りの乳房の方が著しく

發育して居る者が多い、且つ乳汁の量も發育の良い左りの乳房の方が多い。ラッサビリールと云ふ人の調査た所に由ると、五百五十名の乳母の中で、其五十一%は左りの乳房の發育が著しく、二十五%は右の乳房が發育良く、二十四%は左右乳房の發育が同じであつたと云ふ。斯如く左りの乳房の發育が右の方よりも良いと云ふのは、乳母が其の小兒に哺乳せしむる時に、小兒を左りの手に抱いて、同じ側の乳房を與へる方が便利な爲であらうが、これには又遺傳の關係もある事と思れる。それでエツソルツと云ふ人が小女の乳房に就て檢査をして見たのに、其五十五%に於ては、矢張左りの乳房の發育著しい事を認めたと云ふ。

（以下次號）

腸窒扶斯

腸窒扶斯は年々多くなつて、いよ／＼東京名物の一つに數へなければならぬ有樣であるが、本年の流行は殊に激しく、一月一日より四月二十日に至る僅かの間に九百三人の新患者を出し、現に五百幾十名といふ患者がある、尚は四月十五日以來、毎日三十名内外の新患者を發生し、何處の病院の傳染病室も滿員で、遂に止むを得ず自宅療養をして居るものもあるといふ始末で、此勢で進んだならば如何になりゆくか頗る憂ふべきことである、凡て傳染病は、火事と同樣、自宅から出さぬやうに、又他から襲らぬやうに、十分注意した上にも、尚は用心しなければならぬ、依て玆に此題を揭げて、腸窒扶斯に對する豫防並びに一般の注意を述べて御參考に供しやうと思ふ次第であります。

原因

腸窒扶斯は何に由て起るか。昔は傳染病卽ち疫病が流行すると、此は疫病神の祟であるといふて、種々樣々の御祭や御呪禁などをしてこれを免れやうとした、今日に至ても尚ほ斯樣な事をして居るものが少なくない、けれども此は全く迷信で何の役にも立た

ぬのみならず、此種の迷信に由る所の、知らぬが佛的の安心に依て、自らを危くし、他を害することが決して少なくない、併し妄に心配して徒らに怖れるのも、同じく害が有る、又賢明なる人のことではない、凡て妄に恐怖し、或は迷信に陥るといふことは、その事の依て起る源を明かにせず、その事の有様、成行を審らかにせず、從つてこれに對する覺悟がないからのことであります。それで何人も一通りは此原因を知つて置かなければならぬ。

昔は熱病の神、疫病の神として恐ろしい鬼を描いて居る、斯様なものならば、今日は少しも恐るゝに足らぬ、忽ち捕縛されて監獄にでも入れられませうが、顯微鏡といふ淨玻璃の鏡にかけて其正體を現はして見まするに、これは鬼ではない、寧ろ鬼の持て居る金棒に似た形をして居る、而して其金棒の太さはどんなものかといふに、長さは一乃至三ミクロン、幅は〇・六乃至〇・八ミクロン（一ミクロンは千分の一ミリメートル）實に小さなものであります。此が即ち窒扶斯桿菌といふもので、これに八個乃至十二個の毛のやうなものが有つて、これを以て活潑に運動致します。斯様に細かいもので只では目に視ることも、どうすることも出來ませんから、誠に始末がわるいのであります。

處在

次に此の窒扶斯の黴菌は何處に居るかといへば、先づ腸窒扶斯患者の身體が第一の巣窟であつて、これから外に出される大小便の中にも無數に居る、從つてこれを以て汚された土地、水、患者の著て居つた衣服、夜具、何れも黴菌の住家である。

傳染の徑路

偖てこれがどんな順序で傳染するかと申せば、水が第一の仲立をするのである、乃はち本病患者の尿や糞便で以て汚された水を飲めば無論のことであるが、斯様な水を使つて料理した食物を食べても罹る。これが汚れて居る水といふことを知つて居れば誰も使ふ人もあるまいが、それがちよつとわからぬ、といふ

のは第一、目で見ることが出來ぬばかりでなく、清潔な井戸だと思ふて居ても、其近所に在る便所の構造が不完全であれば、その糞尿が地の下に滲み入つて、黴菌も一緒に井戸の水に混じるやうなことがある。それ故に堀井戸の水は甚だ危険である。又患者の糞便を河水に棄てたり、襯衣を洗つたりして河水を知らずに使へば大に傳染する。患者やその衣服類を取扱つて、手を消毒せずに飲食すれば最も罹り易い。又洗濯をする時に水が跳て直接に窒扶斯菌を嚥下やうな危険もある。患者の用ゐた夜具蒲團を十分消毒せずに、敲けば、その塵埃と共に黴菌を吸ひ込んで罹るやうなこともある。患者の衣服を消毒せずに着て罹ることもある。患者の用ゐた檢溺器や灌腸器を十分消毒せずに使へば直接に傳染する。此等は先づ誰も出來得るだけ注意することであるが、玆に一つ困ることは、窒扶斯に罹つても最初は氣が付かぬ、又外から見てもわからず、全く健康人の通りで働いて居る、此の患者が頗る危険である。尙ほ一旦恢復したといふても、その糞便には久しい間、窒扶斯菌があるので、此の種の患者に由て傳播さることが隨分多からうと思はれる。

年は若いものでも老人でも罹るが、二十歳から四十歳の丈夫なものが多く罹るやうである。男も女も罹るが、大概流行の初は男が罹つて、それから女にも流行して來るやうである。

又一回窒扶斯に罹れば、その後は罹からない、即ち免疫性を得るものであるが、併しそれでも慥かに罹らぬとはいへぬ、實際二三回も罹つた例が無いではない。

症狀

腸窒扶斯に罹れば、どんな症狀が起るか。これは最初病原菌が身體の内へ這入つたばかりの時は、痛くも痒くも何ともない、全く健康の狀態に異ならない、此時期を潜伏期といひ、凡そ二週から三週間位である。この時期が過ぎると前兆期といふて、まづ身體が何となくだるくて、食事も進まず仕事がいやで、

頭痛がして僅か熱があつて、腿の邊が痛むやうな事がある、然しこの前兆期なしに直ちに本病の症候を現して來る事がある。それはまづ幾度も惡寒がして、次で熱が起つて來る、この熱は腸の變化に伴ふて、初め一週間の間は、段々昇つて、三十九度から四十度、尙以上にも達する。第二週間目には四十度前後で昇り降りをして、三週間目になると朝晩の熱の昇り降りが稍著しく、四週間目になりますると段々下り坂になつて、遂に降つて當り前の體溫に復します。一體病氣のことを餘り詳しく書きますると、素人の方には只神經性に窒扶斯に罹つたやうな氣がして、徒らに恐怖心を增すやうな事になり、又醫者でなければ解剖的の恐ろしい變化などは知らなくともよろしいのでありますから、こゝには外に現れる著るしい症狀だけを舉げる事に致します。

茲に患者が在る、發病してから八日程になる、頭には氷嚢をあてゝ居る。熱は四十一度、脈を取つて見るに、比較的遲い、一體熱が高かければ、脈も早く數が多いのであるが、斯樣に熱と脈と不揃なのは、窒扶斯の持前である。舌を出さして見るに、二三日前までは汚ない色をして居つたが、今は乾燥して、滑澤で赤色をして、ひどく舌の尖が顫ふて居る。襯衣を開いて見るに、胸の下の方に、豆程の大さの赤い斑點がぽつ／＼出來て居る、これは薔薇疹といふものである。次に左の季肋部から臍の方へかけて、よく腹を觸つて見るに、稍々手ごたへのある或物を觸れる、少し強く壓すと痛いと云ふ、これは脾臟が腫れて居るのである但し醫者でなければそんなことはなか／＼分からぬ。次に下腹の右の處を壓して見るに、矢張痛いといふ、且つ此部分で腹がごろ／＼鳴る、廻盲音と云ふのは此事である。又下痢して居つて、其色は豌豆を煮た汁のやうである。尿量は少ない。患者の顏貌は、ぼんやりして、少し口を開いて、眼も動かさず、餘り瞬目もしない、これが所謂窒扶斯顏貌と云ふて、特有の顏貌である。第三週或は第四週にもなれば、顏面は瘦削て、顴骨が出て、

鼻高く、頬と眼は落込んで、なさけない顔貌になる、これを名づけてヒポクラテス顔貌といふて居る。

以上は腸窒扶斯患者の概況でありますが、その精神の方も侵されますので、昔はこれを神經熱と云ふたものであります。乃ち既に一週の終頃になりますると、精神がぼんやりして來て、耳が遠くなり、飲食も欲しがらず、凡て無頓著になつて、段々病氣が進むに從つて、譫言をいふやうになり、譯もなく手を伸べて、何か物を掻きさぐるやうに指を動かします、又或者は、大きな聲で譫言をいふて、牀の上を轉げ廻り、或は其周圍を敲いたり、唾を吐きかけたり、甚しきは臥牀から跳出したりするものもあります。

以上は腸窒扶斯の著しい、型通りのものに就ての話でありまして、流行時の模樣に由り、又種々の事からして、重いこともあり、至て輕いこともあり樣樣であります。而して治療も看護も善く行屆いて、餘病を惹起すことがなければ、通常六週もたてば、牀を離れて、注意して漸次平常の仕事をすることが出來るやうになるものであります。

再發

腸窒扶斯は一旦熱も去つて、もう此なれば大丈夫といふてから、二週或は三週の後に至て、再び起つて來ることが間々あります。或は最初の病氣が未だ終らぬ中ぶりかへすことが屢々ある。これは大抵餘り早く床を離れるとか、飲食物の不攝生とか云ふことが主なる誘因となるやうであります。

併發症

腸窒扶斯では隨分色々の餘病を惹起しますが、その中でも恐ろしいのは腸出血と腸穿孔であります。どちらも第三週目に起ることが多い。それは第二週目に腸の内に出來た痂のやうな塊が、第三週に至つて剝落ちて、その傷の處から血が出、又は破れるのであります。出血しますると、今迄昏憒して居つた患者も、再び氣がはつきりして、顏は蒼白く、前に述べた所謂ヒポクラテス顏貌になります、或人は單に出血するばかりなれば却て善いと申します

が、何分危險の症狀であります。その傷が深く、遂に腸に孔があきますれば、腹膜炎を起して死ぬのが常であります。其他耳下腺炎、氣管支加答兒、肺炎、褥瘡なども屢〻起る所の併發症であります。

豫防

凡て傳染病の流行時には、罹からぬ前の用心、豫防法が第一である。豫防をするのには、その物に由て方法が異なる、盗賊に對しては戸締が肝要であり、火事に對しては臺所、ランプに氣を付けなければならぬ、尚はその周圍の垣や、物置などにも注意しなければならぬ。此れと同じく傳染病にも種々あつて各〻これに對する心得がありますが、腸窒扶斯の豫防につきましても、先づこれが何處から這入るかと云ふことを知らなければならぬ、それは前に原因の所でお話致した通り、主として飲食物に依て口から這入り込むのでありますから、飲食物の注意が第一である。實に口といふものは大切なものであるが、言葉を出しては禍の門となり、飲食物を取るにも禍の門となる、よく〳〵戸締を嚴重にし、智識の劍を輝かし、攝生の銃を持つた衛生思想の番兵を立てて、此門を出入するものは一々これを誰何しなければなりません。口さへ守れば決してこれに侵さるゝ氣遣はありませんが、併し飲まず食はずには居れません、そこで此の飲食物を吟味する、つまり飲食物に窒扶斯菌が混じつて居らなければ善いのである、けれども一々飲食物を顯微鏡で檢査した上でなければ口に入れぬといふ譯にはいかぬ、そこで此飲食物の何處から出て、如何に取扱はれて來たかを調べれば善い、けれども之亦困難である、然らば如何にすべきかと云ふに、凡て黴菌といふものは燒かれたり煮られたりしては死んでしまふから、一切食物は十分煮て食べる、殊に飲水は無論のこと、食器を洗ふ水でも其他の用に使ふ水でも皆一度煮沸して使へば安全である。飲食物の方は以上の注意で澤山であるが、尚は注意をしなければならぬのは自分の手である。何時何處から手に窒扶斯菌が附着しないとは云

はれない、その指で以て口に觸れたり、飮食物、器物を觸れば矢張危險である。故に飮食に際しては、少くとも其手をよく洗つてから膳に向ふやうにする。銘々の注意は此だけで澤山である、至て簡單なものである、乃ち生水を口に入れず、生物を食べず、手を洗ふ。これだけの注意を守るならば腸窒扶斯患者を取扱つても先づ危險はない、但し手は必ず消毒液で十分に消毒することが必要である。併し窒扶斯菌は飮食物や手にばかりに著くものではない、頭でも足でも衣服でも何處にでも附著する、而してこれが機會を得て口の中へ飛込めば同じことである、假令自分は罹らぬにしても、斯樣な危險な物を運んで來て、家の內へ撒き散らされてはかなひません、それですから病家を見舞ふた時は無論のこと、疑はしい場所に行つたり、人のこみ合ふ電車の內で、特に彼の不潔な吊革につかまつた人などは、家に這入る前には宜しく塵を拂つて、衣服を脫代へて手を洗つて室の內に這入つてもらいたいものである。兎に角、前に述べた三箇條の注意を守れば自分だけは罹らぬから、何程流行しても恐れることは入らぬ、徒らに恐れるよりも守るだけの主義を實行して、それでも罹れば、これは眞に怪我である、から仕方がない。

療法

腸窒扶斯には只今の所では別に特效藥とてはない、血清も出來て居るが、これを以て豫防し、療法を施して、完全に效を奏するといふことは覺束ない。腸窒扶斯は通常の經過を取つて、腸出血とか腸穿孔とかいふやうな危險な併發症も起らなければ、特別の療法を施さずとも、治癒するものである。從つて看護法が最も大切である。看護の如何に由て治すべきものも死し、死すべきものも治することになる。これは決して忽かせにすることは出來ない、それで患者自身の爲にも周圍の爲にも傳染病院に於て治療することが一番安全である。一々醫師の監督指導の下に、其病狀に應じて理に適つた取扱をしなけれ

ばならぬから、玆には其處迄は說く必要がなからうと思ふ。只恢復期になつて漸く食欲が起つて來た時に、醫師の戒を守らずに、動もすると再燃、再發を來して、折角治癒りかけたるものを、再びぶりかへして又々危險に陥るのは實に殘念なことである。

尙ほ平常酒を飲む人が、窒扶斯のやうな熱病に罹ると、元來其心臟が弱くなつて居るので先づ危險であるが、いよ〳〵衰弱して來た時に、心臟を強める大事な酒精類が、此處に至つて餘り效能を現はさないのでます〳〵危險である。それから無闇に心配する人も豫後は惡いやうである。自分が注意に注意をしてそれでも罹つた時は致方がない、普通に行けば窒扶斯は治癒るものである、又一度經過すれば、二度罹る憂もない、殊に治癒れば以前よりも健康を增す、つまり烈しい免疫療法を受けたものと思ふて、一切を醫師と看病人に信任して、平氣で療養すべきである、乃ち人事を盡して天命を俟つ、これで安心が出來なければ、眞に覺悟の惡い、心得方の間違つて居る人と謂はなければなるまいと思ひます。

生活上改良すべき點

『世の中は、三日見ぬ間の、櫻哉』

櫻と云ふものは、咲いたかと思ふと、直に散つて了つて、誠にその生命は短ひものであります、それに譬へて、人や世の中が、早く遷り變ることを、謂つた歌でありますが、人の變ると云ふことも、却々早いものであります、晨に紅顏の美少年も、夕には白骨と成つて了ふと云ふことは、昔からの通用語でありますが、實に人生の有爲轉變を遺憾なく謂ひ顯した詞であります、このやうに吾々は早く移り變つて、昨日までの氣力元氣は、一寸した病のために、今日ではモー見ることが出來なくなつて了ふと云ふことは、常にあることで、モー良く心得てゐて、夫々覺悟をしてゐるのであります、併し人間の慾と申すものは、厭と云ふ程多くて、限りがないものでありま

すから、年を取れば、若いものゝやうには、氣力も盛ではなく、亦容貌も美しくはなくなると云ふことを知つてゐながら、ドーかして、モー少し氣力を盛にし、容貌も美しくしやうと思つて、色々の工風をしてゐるものであります、誠に自然に逆いたやり方で、とてもそれは駄目だと思われますけれども、併し老人と云ふものを大切にして、その精神を盛にし、身體を健康にして、置くと云ふことは、たゞその老人だけの利益ではなく、社會上の利益となるもので、これは社會一般のものが、氣を付けなければならぬことであります、なぜかと申せば、老人と云ふものは、若いものよりも、長く世の中に、生活してきたもので、その間に得たところの經驗は、非常に澤山であつて、若いものが、どんなに、本を讀み、または研究を行つても、とても老人の經驗よりも以上の智識を得ることは出來ないものであります、それ故老人と申すものは、社會のお寶であると云つても、良しいのであります。

抑も世の中の人をよく注意して見ますると、皆老人になつたときのことを心配してゐて、昔の英雄、豪傑のやうに、老て益ゝ盛なりと云ふやうな氣力は、藥にしたくも、これを見ることは出來ません、そして老人と云へば、直に病氣と云ふことを聯想して、自分が年を取つて行くことをクヨ〳〵心配してゐます、お醫者の方でも亦、人が年を取れば、ヨボ〳〵の廢物になつて了ふと思ひ切つてゐるものでありますから、老耄とか、老衰とか、云ふやうな文字を拵へて、老人が原因なしに、衰弱して行く有様を、自然の成行きであるとしてゐます、苟も人の生命に關して、顧問であり、同時に救濟者であるべきものが、こんな無責任な、氣の弱いことでは、吾々は決して安心することは出來ません、吾々醫者以外のものは、常にこれを心に持つてゐて、自分で以て自分の身體や精神を愛護して行く覺悟でゐなければなりません、皆様の内には、御承知の方もありませうが、獨逸の大詩人、同時に十九世紀の大詩人として、

世界の文壇に英名を轟かした、あのゲーテと申す人は、どうでございますか、死の日が近づいて來たにも拘らず、その前日まで、精神は確かで、頭脳は明晰であつて、詩を語り、文を語り、その病人であると云ふことは、少しも判らなかつたと云ふことであります、これ等のことを考へて見ても、老人に成れば、必ず老耄して了ふと云ふことは、どうしても本當とは考へられません。

人の命と云ふものは、夫々その人の體質と謂つて、身體の性質に依つて違ひ、また家族にも關係するものであります、よく世間にあることですが、あの内では、代々皆長生であると云ふことを聞くことがありますが、これはこの家族が長生であると云ふことであります、そうすればなぜ、このやうに違ふのであるかと申しますと、これは說明の出來ることゝ、出來ないことゝがあります、マー多くは說明が出來ないもので、遺傳性とでも云ふより外はありません、それ故物の判らない人は、人の命は神樣が、おきめになつたのだなど、勝手なことを申すやうに成つたのであります、併し決してそんなことはありません、如何に神樣に贔負にされて、澤山の命を貰つてゐるものでも、不養生をすれば、譯なく命を縮めることが出來ます、だから、吾々の命に就ては、神樣よりも、自分で攝生を守ると云ふことが大切でもあり、またその方が餘程確かで效力が多いと思はれます。

併し如何に養生をしたと申しましても、色々の事情のために、知らず〳〵これを怠ることがあります、世の中が進んで行くに從つて、人間と云ふものは、多くの物事と關係を持つやうになるもので、昔の聖人とか君子とか云ふやうに、超然と世間から飛びはなれて、自分は自分だけのことをして、人が何と云ふても、世間との緣が切れやうとも、そんなことには一向構はないで、山の中にでも這入り込んで、蕨でも採つて安樂に一生を暮すと云ふことは、今日の世の中ではとても出來ないことであります、それ故

攝生の大切なことは知りつゝも、不攝生を致すものであります、併し知つて不攝生をするのなら、幾分か氣を付けると云ふことがありますが、中には不攝生であると云ふことを知らないで、大變不攝生なことをして居るものが澤山あります、このことはモー世の中には昔から行われて居て、誰でも行つて居るから、惡いことではあるまいと思つてゐると、實はそれは大變惡いことであると云ふことは度々あることであります。今日日本人の體格が太古の日本人と比べて、大變劣等であると云ふことには、色々澤山の理由のあることでありませうけれども、一は世の中の進歩に連れて、人が皆止を得ず不攝生をするやうになり、またそれが習慣となつて、今日では別段不攝生とは思わなくなつて、誰でもその不攝生をやつてゐるのではないかと思われます、確かにさうであるとすれば、日本人の體格を優等のものにして、世界の文明人種として恥かしくないやうな、立派な人種に仕立てやうとするには、今申し上げたやうな、人の氣に付かない不攝生を算へ上げて、それを研究して、その害であると云ふことを世の中に警告して、世の中の人の迷ひを醒して、正しい幸福な生涯を暮らせるやうにしなければなりません。

私は世の中の色々の方面を觀察致しまして、確に斯ふ云ふやうなことが澤山あることを見出しましたから、これからそれを算へ上げて、それを救濟するの方法を述べたいと思ひます、社會の階級は今日數種に分れてゐますか、どの階級を見ても、こんな惡習慣は澤山あります、中には到底除くことの出來ないこともあります、まづ下級の社會から始めやうと思ひます。

（以下次號）

美容法（承前）

第二、皮膚の分泌物

人間の皮膚からは二種の物が分泌されます、卽ち脂と汗であります、而してこの二種の分泌物は、餘り

多く分泌される事が屢〻ありますけれども、普通以下に分泌が少くないと云ふ事は頗る稀れであります。此脂の分泌が多過ぎるもの、卽ち皮脂漏は最も屢〻顏面の美を損するもので、特に十五歲から二十五歲位ゐ迄の年輩で、最も美貌の貴とばるゝ年頃に特に烈しく罹るものであります。而して少年よりも少女の方が早く始まつて、且つ早く止むものであります、只、まゝ此の狀態が二十歲或は二十五歲以上迄も續いて、此如き場合には時として一部分、或は顏面の皮膚一面に炎症を起す事があります。なぜこれが斯樣に持續するのであるかと云ふ原因に就ては、まだ明らかに成つて居りません。

此如き人の皮膚は、脂濃く色はきたならしく、往々黑ずんだ樣なところに、黃色を帶びたブツ〳〵が出來る事があります、然しながら只其色艶が何んとなく美しくないと云ふだけで、一向脂染て居る事が分らぬ場合があります、けれども卷煙草の紙で其皮膚を撫て見れば脂のシミが出來て、これに依つて其皮膚を見分ける事が出來ます。

斯樣な場合には又、盛んなる脂肪分泌の爲に、腺の、開口部が粘著して、小さな黑い點のある面皰となり、遂には其周圍に炎症を起して、痤瘡と云ふ樣なものになります。これはつまり脂濃くきたない皮膚と、面皰と、痤瘡の、ゴツチヤになつた頗る醜い狀態であります、これより犯される所の場所は頭部全體、顏に於ては殊に額、鼻、及び鼻と頰との間の皺の所でありまして、頭の毛の生てる部分では、只皮膚が脂濃い丈けであります、頭垢所謂雲脂が、肩に落ちる位の事は別に大した事でない、一體此の皮脂漏は病氣と名付けべき程のものではないのであります、又前頸部は決して犯される事はありません、項部は稀に罹る事があり、胴に於ては中線の所で、手を二つ併べた位の部分が、最も多く來る場所でありまして、前の方は臍からかけて、後は薦骨に達する部分であります。

此の現象に對して、方法を施す事は仲々困難な事で

あります、多くの人は、腸或は生殖器がこれに關係して居るものと信じて居りますが、これは頗る疑がはしい事で、且つ何んの證明もないのであります、内服藥として效能あるは硫黄劑と過酸化マグネシウムですが、これは醫者の處方に依らなければなりません。これよりも外の方からする皮膚の療治が主でありまして、これも常に特別なる醫者の注意に基づいて行はなければなりません。

皮脂漏にも前に申したやうに略ぼ三段の時期がありまして、此の三期に通じて常に效能のある方法が三つあります。乃ち冷水、次に一種の按摩、これは後に至つて改めてお話することゝし、第三には硫黄の入つて居る軟膏、これは種々の處方があり、又色々に用ゐられます、二%から五%位までの硫黄軟膏で、これにはワゼリンやグリセリンは通常用ゐません、大概密蠟、鯨蠟又は扁桃油などを使ひます。又三%から五%位の硫黄とゴム漿を混ぜたものを筆で塗れば效がある、名高いクンメルフエルド水といふのも、その處方の大事な部分はこれであります。これは稍や醫師の治療上に亙つて參りますから、この位にして置きまして、尚ほ硫黄の製劑にも色々のものがあり、その處方及び用法も種々でありますから、餘り手療治は勸められません。熱い湯と蒸汽浴のことについては、既に一寸申上げて置いた筈である。皮膚が只だ脂ぎつて居る間は、屢〻石鹸で洗ふ外に、尚ほ半%のレゾルチン、一%のサリチール酸及びチーモールなどを混ぜた酒精液で洗つて宜しい。又酒精の代りにキヨルン水とか芳香酢などいふものも用ゐられます。

面皰はこれを一つ〳〵柔かに搾り出す器械も出來て居りまして、前に申した洗滌法と、摩擦法と併せ用ゐれば、色々な藥劑的療法よりも遙に效があります。面皰が赤くなつて膿を持て、所謂痤瘡といふやうなふうになれば、これはとても素人療治ではかなひません、是非醫者にかゝらなければなりません。今日では此等の重症の場合には、種々光線療法を施し

て效があると申して居ります。
脂肪の分泌が餘り少なければ、皮膚は乾燥してカサ〱になります。斯樣な場合には適當に脂肪を擦り込めば、容易に效能が現はれるものであります。
次に汗の分泌でありますが、これは手、足、腋窩に於て多くなることが最も屢ゝであります。此の汗の多いのを止めては害があるといふ說もありまして、多少考へなければならぬことでありますから、その根治療法を行ふには矢張先づ醫師に謀らなければなりません、併し多くの場合には汗を止めても別に害はないやうであります。
婦人には、この腋窩に汗が多く出て困る人が特に多いやうである。そうすると此汗は直ぐ分解するので、厭な臭を發するものであります。これには屢ゝ石鹼と水で洗ふのが良い方法でありますが、最も善いのは每日數回洗つて、酒精或は醋を擦り込んで、其後で粉藥を撒つて置くことであります。その粉は、單寧酸、撒里矢爾酸各五・〇　硼酸一〇・〇　亞鉛華二〇・〇　滑石四〇・〇　或は單に蒼鉛劑でも宜しい、普通賣藥店や、化粧品店などで賣つて居る止汗粉も、大抵此等の藥に、香の好いものや其他の粉末を混ぜたものであつて、つまり何れの粉でも別に差支はありません。貴婦人方が餘所へ出掛けられる時には、先づ少し厚く疊んだガーゼか綿を、熱い湯に浸して、二三分間づゝ數回これを腋窩にあてゝ、それから次硝酸蒼鉛或はその他の粉末を附けられゝばよい。尙ほこれには水藥も軟膏類も澤山ありますけれども略します。以上の方法を試みられたならば、それだけで十分のことゝ信じられる。
手汗は男も女も同じやうなもので、特別女に多いといふ譯ではないが、これ亦甚だ不快なものであります。此時には手に擦り込む種々な藥があります、例へば硫酸規尼涅一分と滑石十分の割合に混ぜた粉藥、これを度々手掌で揉むのであります。尙ほこれは神經の方の關係から來るのでありますから、電氣やX光線を應用して、著しく效能のあることもありま

す。

足汗の療法は、なるべく冷水で足を洗ふやうにして、湯は一切禁物です。而して度々足袋や靴下を換へるやうにし、尚ほ趾の間には、足をよく乾かした後で、タンノフォルム又はウエストゾールなど云ふ藥を擦り込みます。但しこれは白足袋には、忽ち汚斑が出來ますからお斷して置きます。その他ホルマリン石鹸も效があります。專門家につけば又それぐ\根治療法もありませう。

頭部の多汗症は比較的稀な方でありますが、これにも矢張電氣療法と冷水洗滌が最も有效であります。

汗は蒸發して目にこそ見えませんが、誰でも常に出て居るもので、少し烈しく運動でもすれば流れるやうになる、然るにこれが全く出ないと云ふのは、只何か他の病氣の分症として來るのであります。

（以下次號）

育兒

小兒身體の發育

小兒は初め母の胎内で、二百八十日間母の血液で養はれ、世の中に生れ出ると母乳や牛乳で養はれ、終いには自分で色々の食物を取つて生長するやうになりますが、その生長の有樣は年齡に由て、一樣でありません、ある時は非常に生長しても、ある時は少しも生長しないといふ風でありますから、小兒を大きく育てやうとするには、その生長が最も盛なときに、十分に注意して生長を助けるやうに致さねばなりません。

人間の身體の發育には、一定の程度があるもので、限りなくどこまでも大きくなるものでありません、又人種が違い、生活して居る土地が違い、社會的の

位置が違ふときには、身體の發育の有様も違ふものでありますから、同じ日本人でも東北の人は丈が高く、中國の人は丈は高くなくて横に太いと云ふ差異があり、上流社會の小兒で、始終滋養に富だ食物を食べてゐるものは、早く大きくなるのであります、一體に西洋人は日本人より大きいのは、人種が違つてゐるがためであります。

身體が大きくなるといつても、どこもかも年を取るに從つて同じやうに大きくなるものではありませんで、生れたときに、一番發育の不十分な所が、後に發育する度が强いものであります、小兒の眼は割に大きいものでありますが、これはその後決して大きくなるものでありません、生れたときから、すでに大人と同じ大きさを持つてゐるものであります。小兒の頭も莫迦に大きくて、大變釣合の惡るいものでありますが、これは少し位大きくなるばかりでありますから、生れたときの頭の大きさは、全身の長さの四分の一に當り、三歳になれば、五分の一、二十五歳になれば、七分の一になります。足もこれと同じく、生れたときには、大變短くて、これで歩けるかと思ふ位でありますが、年を取るに從つて、段々と延びて參りまして、生れたときの長さの六倍まで延びます、手も同じやうに、生れたときの長さの四倍までは延びます、このやうに胴も頸も發育して、大人になるのでありますが、二十五歳を過ぎると、少しも大きくはなりません。

身長は、頭、頸、胴、足などの發育するために、延びるものでありますが、一番澤山延びるのは生れた年でありますが一年間に約三寸延びて、その次の年には、一寸五分ばかり延びます、それから後は四五歳までは極く少しづつ延びます、そして發育の止るのは、男子ならば二十五歳、女子ならば二十三四頃であります、そして三歳のときに、頂度大人の身長の半分になつてゐます、七歳では三分の二、十歳では四分の三に當ります。五六歳から十一二歳まではまた、早く發育するものでありますが、女子では、

八九歳又は十歳頃から、早く發育するやうになつて、十四五歳頃から後はあまり、大きくなりません。
季節はまた身體の發育に關係するものでありますが、男女とも五歳までは、夏冬同じやうに發育し、それから十歳頃までは夏の方が良く發育致します、冬に身體の發育の惡いのは、日光の光線が少いためであります、その外運動の不十分なのも尠からず關係するでありませう。女子は胴の發育することが、男子よりも强いものでありますから、身長の同じな男女を比べてみると、胴は女子の方が長く、足は男子の方が長いのであります、それが十四五歳以上になれば、胴も脚も女子の方が長くなります、つまり十四五歳の女子は大變身體の發育が早くて、同年齡の男子よりは、餘程大きいのであります。
大體右申すやうにして、身體の丈が增へてゆくものでありますが、これを外國の小兒と比較して見ると、日本人は小兒のときから、外國人と比べて、どの位違ふものであるかといふことが分ります。文部省で調査した日本人小兒の身長は次のやうであります。

年齡	男子	女子
六年より七年まで	三尺五寸六分	三尺五寸三分
七年より八年まで	三尺七寸六分	三尺七寸
八年より九年まで	三尺八寸九分	三尺八寸二分
九年より十年まで	四尺五分	三尺九寸六分
十年より十一年まで	四尺一寸九分	四尺一寸五分
十一年より十二年まで	四尺三寸二分	四尺三寸六分
十二年より十三年まで	四尺四寸六分	四尺五寸九分
十三年より十四年まで	四尺六寸九分	四尺七寸二分
十四年より十五年まで	四尺八寸二分	四尺七寸八分
十五年より十六年まで	五尺八分	四尺八寸八分

獨逸伯林で調べたのを見ますと、次のやうであります。(これはサモシュと云ふ人の調べであります)。

年齡	男子	女子
六年より七年まで	三尺八寸九分	三尺九寸二分
七年より八年まで	四尺二分	四尺四分
八年より九年まで	四尺一寸九分	四尺一寸八分

九年より十年まで	四尺二寸三分	四尺二寸二分
十年より十一年まで	四尺四寸六分	四尺四寸六分
十一年より十二年まで	四尺五寸八分	四尺六寸五分
十二年より十三年まで	四尺七寸八分	四尺八寸五分
十三年より十四年まで	四尺九寸五分	五尺一分
十四年より十五年まで	五尺一寸一分	五尺一寸八分
十五年より十六年まで	六尺三寸四分	五尺二寸一分

右の表で見ると、日本人の男兒は、七歳と八歳との間、十三歳と十四歳との間、十四歳と十五歳との間、十五歳と十六歳との間が、各々約二寸の増加を起して居ますが、女兒の方では七歳と八歳との間、十歳と十一歳との間、十一歳と十二歳との間、十二歳と十三歳との間が各々約二寸の増加を示してゐますが、男女を比較して見ると、十二歳から十六歳頃までは、男よりも女の方が身長が大きいのであります、これは前にお話致したことと、一致してゐる成績であります。獨逸の調べに由りますと、男兒の方では、十二歳と十三歳との間、十三歳と十四歳との間、十四歳と十五歳との間、十五歳と十六歳との間、で、各々約二寸位の増加を示してゐます、女兒の方では十歳と十一歳との間、十一歳と十二歳との間、十二歳と十三歳との間、十三歳と十四歳との間で、矢張りこの位の増加があります、そして男女を比較して見ると、概して同樣でありますが、十一二歳の頃から女兒の方が大きい樣に見えます、併し十六歳になると男兒の方が少し大きくなつてゐます、これで見ると日本の女兒は獨逸の女兒に比較して發育が惡いやうであります、男兒の方は相當に生長發育して行きますけれども、女兒の方は男兒との釣合が甚だよろしくないことが分ります。換言すれば、日本人では男女の身長の差が多くて、獨逸人ではその差が少ないといふ結果になるのであります。

胸圍は普通身長の半分に等しいといふのが、理想的の狀態でありますけれども、身長が急に延びるときは、胸圍の増加がこれに遲れて、身長の半分にも足りないことがあります、概して云へば學齢前の小兒と、

既に十分生長した大人とは、胸圍が身長の半分に相當してゐますけれども、學齡兒ではこの比例が正くありません、文部省の調査に依りますと、日本學齡兒の胸圍と、身長とは、左のやうな比例を持つてゐると申します。

年齡	男子 身長	男子 胸圍	女子 身長	女子 胸圍
六歲	三尺五寸六分	一尺七寸八分	三尺五寸三分	一尺一寸五分
七歲	三尺七寸六分	一尺八寸三分	三尺七寸	一尺四寸五分
八歲	三尺八寸九分	一尺八寸八分	三尺八寸二分	一尺八寸四分
九歲	四尺五分	一尺九寸四分	三尺九寸六分	一尺九寸一分
十歲	四尺一寸九分	二尺一分	四尺一寸五分	一尺九寸八分
十一歲	四尺三寸二分	二尺八分	四尺三寸六分	二尺五分
十二歲	四尺四寸六分	二尺一寸三分	四尺五寸九分	二尺一寸四分
十三歲	四尺六寸九分	二尺二寸	四尺七寸二分	二尺三寸四分
十四歲	四尺八寸二分	二尺二寸七分	四尺七寸八分	二尺三寸七分
十五歲	五尺八分	二尺四寸九分	四尺八寸八分	二尺四寸

これで見ると、七歲から後は胸圍の二倍が身長よりも短いのでありますが、これは身長の增加することが劇いためでありますから、二十歲前後になつて、身長の增加することが、少くなると、身長と胸圍との比例は正しくなります、この現象は日本人ばかりではなく、外國の小兒もこれと同樣な關係を示してゐます。

次に體重のことを申しますが、親が小兒の發育の良惡を定めるのは、先づ第一番に體重の增へるかどうかといふことを標準にするものでありますから、母親が小兒の自慢をするときは、すぐこの兒は大變重くて、抱いて少し步くと、じきに腕が痛くなると申します、これは小兒の體重が重い、つまりこの小兒は良く肥つてゐるといふことの意味であります。實際小兒の發育が良いか惡いかといふことは、明に體重の上に現はれてくるもので、發育良ければ、體重は盛に增へてゆき、發育が惡るければ、體重は少しも增加することはありません、小兒は日に日に瘦せ衰へてゆくものであります。斯ふいふわけで、小兒の體重は甚だ大切なものでありますから、少し詳しう御話致しませう。

小兒の生れたときの體重は、男兒は八百六十四匁、女兒では七百六十四匁といふのが平均の數であります、これは獨逸の調でありますが、佛國の調に由りますと、男兒八百四十二匁、女兒八百二十五匁であるといひ、日本では、男兒七百七十一匁、女兒七百四十五匁といひ、または男兒八百〇九匁、女兒七百八十六匁であるともいゝます、どちらにしても、外國人の小兒よりも、少し尠いやうであります、これは人種の違つてゐるためでありますから、致し方はありません。

生れてから二三日間は體重は減じてきますが、これは大小便の排泄や、外界の刺戟などが關係するものでありますから、別に驚くことはありません、十日後になれば、この減少は恢復するものであります、若し十日經つても恢復しないものは、正常でないのでありますから、そのときには醫師の診斷を受けさせねばなりません、その減る分量は、時に由て違つてゐますけれども、先づ四十三匁乃至八十匁位が普通であります。母の乳で養はれる小兒であれば、それから後毎月〳〵體重は增へる一方でありますが、その增へる分量を表にして見ると、次のやうであります。(數が少さいため匁でなく瓦で顯はして置きますから、日本の重さに換算するのには、この數に二六六といふ數を乘じて、終りから四桁目の處を匁にして勘定すれば良いのであります)。

一月目	二五瓦	二月目	二三瓦
三月目	二二瓦	四月目	二〇瓦
五月目	一八瓦	六月目	一七瓦
七月目	一五瓦	八月目	一三瓦
九月目	一二瓦	十月目	一〇瓦
十一月目	八瓦	十二月目	六瓦

このやうに生れた月には二十五瓦といふ大量を增加してゐますけれども、だん〳〵それが減つて來て、一年目には六瓦しか增加しないのであります。併し一年目の體重は生れたときの體重の三倍になつてゐます。これ等は皆長男長女について調た數でありま

すが、次男次女以下の小兒になりますと、少し體重は増してきます、生れたときから五十匁位は多いものであります、これは初めてのお產のときよりも、二回三回と度重るに從つて、子宮が大きくなつてくるためであります。それで今生れたときに七百九十八匁の體重の小兒が、だん／＼生長するに從つて、どの位の體重になるかと申しますと、次の通りであります。

一ヶ月	九百八十四匁	二ヶ月	一貫百九十七匁
三ヶ月	一貫三百九十六匁	四ヶ月	一貫五百九十六匁
五ヶ月	一貫七百二十九匁	六ヶ月	一貫八百六十二匁
七ヶ月	一貫九百九十五匁	八ヶ月	二貫百六十一匁
九ヶ月	二貫百九十六匁	十ヶ月	二貫三百〇三匁
十一ヶ月	二貫三百八十三匁	十二ヶ月	二貫四百十匁
二年	三貫百九十二匁	三年	三貫五百十三匁
四年	三貫九百九十匁	五年	四貫三百四十二匁
六年	四貫七百八十八匁	七年	五貫三百二十匁

右の數は佛蘭西の小兒について調た成績でありますから日本の小兒よりは少し數が多いやうであります、日本の小兒ならばこれより六七十匁は少いのが普通であります。

（以下次號）

襁褓に就て

一體襁褓といふのは、初生兒の身體を纏ふ所の簡單な衣服即ち產衣の總稱でありますが、茲では狹い意味で、所謂オシメだけについて、二三の注意を申上げる積であります。

先づ赤坊に湯をつかはせて、よく拭取つて、襁褓を著せますが、此際最も注意せなければならぬのは臍帶で、次にはお尻の御用心である。臍帶の方は、往往これから危險な病を起すから、十分氣を付けなければならぬのは無論のことである、併しこれは一ヶ月も經てば大丈夫である。けれどもお尻の方はなか／＼毎日何回となく濡れたり汚れたり致して、うつかり抱いたりしやうものなら、立派な衣服の膝の上へ、時ならぬ菜種の花が咲いたりする、それでオシメは

是非必要で、而かも一年間はこの世話をしなければなりませんから、隨分厄介なものですが、これは何人も御同樣、母親の難有さがしみ〳〵と思はれる所で、又以て自分の兒共の世話を忽かに致しては濟まぬ譯であります。

偖てこのオシメの布は如何なるものが善いかと申しますに、餘りごつ〳〵した布は、柔い小兒の皮膚を傷けますから無論宜しくない、普通晒木綿かフランネルのやうなものを用ゐます。フランネルは軟かで、温かで善いが、夏分は暑苦しく、且つ乾きが惡い。色は是非白でなければならぬ。凡て白色は汚れが見えて困るなどゝ云ふことを申しますが、衣類の不潔になつて居るのが眼に付かぬだけで、所謂自ら欺いて安心をして居るは危險な話である、特にオシメは屡〻洗濯して取換へなければならぬから白が善い、それのみならず、大便の色は小兒病の診斷には餘程大切なものであるから、常に小兒の大便の性質少くともその色位はよく見なければならぬ、これにはオシメの白色が特に必要である。

次に形は如何なるものが便利であるかと云ふに、我邦の人々は一般に長方形のオシメを用ゐ、西洋では三角のオシメを用うる。これは何れかと云へば西洋流三角形のオシメの方が都合が善いやうである。長方形のオシメを幾枚も重ねて、胸から足までギウ〳〵纏つけるのは、第一小兒の運動を妨げることが甚しいばかりでなく、何時でもお臀から背の方ばかり濡れる。三角形のオシメであれば、その中央の端をお臍の下から前の方へ持つて來て、兩端をぐるりと左右から廻して腹の處で程善く結ぶなり、又は安全針で留めて置いても宜い。至極簡便で、きまりが善くつて、小便も餘り後に廻らず、尚は長方形のぐる〳〵巻きの如く、運動を妨げることもなく、又抱た時にずれ下つて幽靈の足のやうになつたり、反對にずれ上つて背中にオシメをあてゝ大事のお尻はむき出しと云ふやうな滑稽を演ずる氣遣もなく、うつかり粗相をされたりする憂もない、何れの點から觀

ても三角オシメの方が便利であると思ひます。然らばオシメの數は幾枚程あれば宜いかと云ふに、これは何枚でも多い程よい。世の中には立派な布で以て幾つも赤坊の衣服を拵へて喜んで居る若いお母さんも尠くないが、これこそ無駄なことである、赤坊は決してそんな綺麗な衣服を喜びもしないし、又身體の爲になる譯でもない、赤坊よりもお母さんの方が物好で斯様なことをするのである。その癖一番大事なオシメの方は至て儉約で、僅に二三枚しかないオシメよりも衣服の方が多いと云ふやうな始末で、折角綺麗なオべゝも直ぐジト〳〵になるなどは、本末、先後を誤つて居るものと申さなければならぬ。此點にいきますと、矢張どうも西洋婦人の方が氣がきいて居るやうに思はれる。赤坊の衣服は極めて單純なもので、餘程富裕な家でも、親の慰み半分に幾枚も、こんなものを製るやうなことはしない。此等は何でもないことのやうであるが、經濟上から云ふても、育兒衛生上から云ふても、つまり一般に我國の習慣が、西洋に劣つて居る、考が足りないと云ふことの證明になる譯である、實に殘念な次第で、萬事が斯様な調子では、とても競爭に勝て行くことは覺束ない、大に日本婦人の家政、特に育兒衛生上の注意を促さなければならぬことゝ思はれる。これは少々話が横にそれて、尻から脊中へ廻つたやうですが、實際赤坊の衣服は幾つも要りませんがオシメだけは二十五枚や三十枚有つても決して贅澤ではない。是非清潔なものを澤山用意して置いて、頻回交換するに不足なきやうに致し度いものである。赤坊はオシメが濡て居ると、心持が惡いから、泣てなか〳〵眠りません、實際不平さうな聲をして啼く時に檢査をすると、よくオシメが汚れたり、濡たりして居るのを發見する、而して乾いた暖かい清潔なオシメと取換へてやれば、復び快く眠るものであります、それで度々オシメを取換なければならぬのみでなく、このオシメを取替へることを怠つて不潔にして置けば、小兒の柔かな皮膚は容易に爛を生

ずる、それで痛いから啼く、痛いとも氣が付かず、或は氣が付いても懶さに放置して置くやうなことであれば、此の糜爛は益す甚しくなつて、一種の頑固なる皮膚病と變じ、時としてはこれから危險に陷入れることさへもあります。生活上の貧富、敎育の有無にも由りませうが、世中には隨分無頓著なものもあるもので、特に農家などについて見まするに、古著の裏のやうな襤褸を以て、雜巾同樣のごつ〳〵したオシメを拵へ、これに赤坊を繃む、而して少々濡れた位ではかまはない、餘りジト〳〵になれば、そのまゝ乾かして復用ゐる。斯樣な赤坊は實に甚しい臭氣を放つて、丸で小便漬とでも云ふ有樣である、いくら可愛らしい小兒でも一寸抱いて見やうと云ふ氣にはなれない。此等は極端な例であるが、稍ゝこれの槪度なものは隨分あるやうである。兎に角小便で濡れたオシメをそのまゝ乾して再び用うるは間違つたことで、小兒の皮膚に烈しい刺戟症狀を起して來るものであります。尙ほこれを小兒の室內で干し乾かすことは甚だ宜敷ないことである。

斯樣な譯でオシメの世話は、なか〳〵厄介なものである、そこで幾度も取替る代りにオマルを用ゐたらばよからうと云ふ考が起る、なるほどこれならば清潔と云ふ點からいふても、オシメの洗濯といふ手數を省く點から云ふても至極善さそうである、が併しこれは贊成することが出來ない、と云ふのは若し赤坊がオシメを濡さぬやうにしやうと云ふには、一日オマルの上に座つて居なければならぬことになる、そればかりでなく強く脊中を曲げて度々オマルに居させることは、脊椎の發育に少なからぬ害があるからであります。それで斯樣なことは先づ見合はせて、少なくとも小兒が自分で放尿、排便を告げるやうになり、オマルの目的を知り、又食物の關係からして、兩便の間も遠くなつてから始めることゝしなければなりません、それでこれは、どうしても生後一ケ年以上たつてからのことであります。

オシメの數は前にも申した通り二十五枚や三十枚術

へても決して餘計ではない。毎回汚れた分は洗濯して、特別な乾燥室で干せば結構であるが、物干竿の上に綱を張つて滿艦飾も悪くない、よく日光消毒が出來たならば、塵埃を拂つて、皺を延ばして、疊んで用意して置けば、二三日天氣が悪いからといふて困ることもなからうと思はれる。

此のオシメの清潔と云ふことは、小兒の身體の清潔を保つ爲に必要なのでありますから、玆に小兒の身體そのものゝ清潔法についても一言しなければなりませんが、全體の清潔法即ち全身浴のことは、本欄に於て屢ゝ說かれて居りますから、それは略しまして、只お尻だけのことを一寸注意致しますれば、オシメを取替へる時に、直ぐそのオシメを利用してお尻を拭いてやる、如何にも氣のきいた簡便法であるが、感服が出來ない、何故かといふに、第一この粗糙な布で、濡れて居る處を摩擦すると、小兒の皮膚には隨分烈しい刺戟である、第二にはこの早手業では、皮膚の皺の間に著いて居る排泄物の殘りが取れない、而してよくこれが分解して刺戟となるからであります。それで先づ單に小便で濡れた場合ならば、綿を湯に浸して、これを絞つて靜に拭いて、其處に粉をつけて置くやうに、若し大便で汚れた時には、オシメ全體を取除き場合に依ては襁衣も、臍帶の繃帶も交換して、微溫の石鹼溶液を綿に浸まして、その汚れた部分を十分に清潔にして、その上で乾燥た綿で拭取つて、粉末をつけてやるのでありますが、尙ほ不潔物が深く皮膚の皺襞に擦込まれて、これでも十分取れない場合には、ワゼリンを少々綿につけて、其處に塗りて、それから洗へばよく清潔にすることが出來ます。

小兒のお尻を清潔に保たうと云ふには、是非以上の方法を實行するより外はないのでありまして、只斯樣にして初めて、小兒の臀部及び上腿に起る所の、彼の不快なる、疼痛を起し、或は時に危險を來す刺戟症狀を防ぐことが出來るのであります。

尙ほ前に申述べることを落しましたから、最後に一

寸申添へますが、オシメの上に油紙や護謨布を用ゐることがあります。これは一利一害で、斯樣な物を以てオシメの上から包む時は、蒸發を妨げて甚だ宜敷くない、小便の濕罨法を施すやうなものだと惡口をする人もありまして、實際これはその通りである、併し單にオシメの下に敷いて蒲團に通らぬ用心には至極善い、又消毒液で拭いて清潔にするにも都合が善いから、これには私は用ゐても差支ないと思ふのであります。但し油紙の臭氣あるものは宜敷ない、又これを直接皮膚にあてることは無論不可ません。

小兒の怪我

小兒の怪我はなか〳〵頻繁なもので、種々樣々な怪我を致します。小兒は既に生後一年にもなりますれば、自分の周圍及びその危險について研究し始めるものでありまして、それには火は燒く、針は刺す、鐵瓶は熱い、小刀は切れる、机の角は尖つて居て固い、墜落るときには地球の引力の非常に大なることなどを經驗しなければなりません。而して此等の經驗を綜合して段々智慧を増して行くのでありますが、これにはその活潑鋭敏なる五官器、殊に疼痛の感覺に由て自分の身に直接此等のことを覺えるのは最も確實な方法であります。それ故に一寸したことでも徒らに危ない〳〵と云ふて、一切の危險を防がうとし、又は豫め小兒をおどかすことは餘り善い方法でない、一度火傷をした覺のある小兒でなければ、眞に火の危險なることを知らないのであります。

小兒は遊で居て よく種々な處から墜落致しますが、これも多少必要である、而して小兒の骨は彈力に富で居り、又皮下の脂肪も善く附いて丸々して居りますから、下が平であつて、餘り高い處から落ちるのでなければ、通常危險はないものであります。大概な人は、小兒の時に一度や二度は椽側から墜落ちたり、椅子から顛落ちたり、梯子段から轉げ落ちたりした經驗がある、而して少々痛いのと驚いたので大

に啼き立てるが、大抵チチンプイ〳〵位で收まる。併し又往々極幼兒では、僅かに子守の膝から落とされた位のことでも、已に內部の損傷、骨折、脫臼、或は腦病などさへも惹起すことがありますから、油斷はなりません、而して哺乳兒では此等の危害を蒙つても、只啼くだけで、外から見た所では、一向何事もない樣で久しく經てから漸く其の大害が現はれるやうなこともありまして、その眞に損傷が有るか無いか、重いか輕いかと云ふことは醫師が十分檢査した上でなければ輕々しく安心する譯には參りません。併し先づ過ちをした後で、小兒が安靜に平和な容姿をし穩に眠むるとか、又は機嫌よく遊び續けるやうな時は、何處にも損傷が無いものと見做して可い。これに反して絕へず氣むづかしく痛さうに身を動かし、或は啼泣し又は氣を失ふやうなことがあれば、此は何處かに損傷を被むつた第一の特徵であります。

高い處から强く墜落ちた場合には、往々全身を烈しく振盪した爲に神經系統の麻痺、卽ちショックを起しまして、その重い時には、全身が蒼白くなつて、口唇は青い色をして、冷汗を流し、吃逆をしたり或は嘔吐をする。又その頭を突いた場合には、所謂腦振盪と云ふ症狀を起して、氣を失ひ、嘔吐を來し、顏は青白くなつて、呼吸は忙しく、脈は遲くなり或は又非常に早くなる、而して往々此等の症狀は已に數分間の後に復び消失することがある。

單純の打撲で、或はコブが出來た位の時には、只水或は醋酸礬土（一食匙を四乃至八食匙の水に薄める）の冷罨法を施せば澤山である。併し頭の怪我は、外觀上何でもないやうに見えても、思の外に頭蓋の內側に容易ならぬ損傷を受けて居るやうなことがありますから、輕卒にはなりません。

ショック及び腦振盪を起した場合には、先づ患兒を水平に臥かして腦に血液を導くやうに、兩脚をなるべく高く致します、それから心臟の働を强める爲に、皮膚に刺戟を與へる、これには芥子を揑て、紙にの

して心臓に貼る、或は芥子丁幾を吸墨紙に浸まして腓腸部、足蹠に貼り、又手足をブラッシで摩擦し、羽のやうなもので鼻粘膜をくすぐる、人工呼吸も必要である（此は別に題を改めてお話することに致します）而して若し物を嚥下ことが出來れば、茶、酒、或は肉越幾斯を薄くして、凡て溫い物を少し宛口に入れてやるやうにしなければなりません。

皮膚に傷のあるもの、即ち本統の損傷に於きましては、切創でも、裂創でも、銃創其他の創傷であつても、即座の手當は皆同様で、先づ第一に血を止めて、第二には繃帶を施すことであります。

傷をして血が出た時に、大きな血管が切れたのでなければ血はジク〳〵出る、靜脈が切れた時にはダラ〳〵流れ出る、動脈が切れゝば、ヒヨコ〳〵と迸しり出る、この動脈の出血が最も危險なのでありますが、僅の出血なれば、其の傷の付いた部分を高くして置いたゞけでも止まる、或は極冷めたい水を灌いでも止まる、然し只の水では、いくら清潔な水でも種々の黴菌が澤山居りますから、一旦沸立て、凡そ六十度位にさまして用ゐればよい、或は消毒ガーゼ、又は新しく煮た布で壓ゆればよい。

即座に血を止めるに最もよい方法は、彈力ゴム管で、血の出る處より心臓に近い部分を固く締める事であります、然しこの彈力紐の無い場合には、細帶でも縄でも構はぬから、矢張其傷よりも中心に近い方、即ち心臓に近寄つた方で、傷の上部の處を縛ばつてそれに棒を通して血が止まる迄捻ればよい。

非常な危急な場合には、指で以て血の飛び出す血管を壓えて居いて助けを待たなければならない、口から血が出る時には冷めたい水か、或は十倍の醋酸礬土水で含嗽をすればよい、衂血は外傷で出る時は、大概其原因は甲介骨にありますが、この時は頭を前に下げてはいけません、又水或は酢などを吸ひ込む必要はない、寧ろ頭を後に反らして、示指と拇指とで二三分間鼻を摘んで居ればよい、其内に血が凝固まるから、大がいこの方法で止まつてしまふ、然

しこれで不十分の時は、ガーゼか或は綿をもつて、時としては、クロール鐵溶液の薄いものをこれに浸して鼻の穴につめる、其方向は前から後ろの方へつめてやる、たゞ上の方へのみ入れては效能がない。

傷の清潔法に付いては、必要よりも却て害を來すやうな恐れがあるから、先づ餘り應用を勸める譯にはゆかぬ、水は前にも述べた通りに種々の黴菌があるから、其まゝ用ゐる事は全然よろしくない、只十分煮沸したものを用ゆべきである、消毒液はよいが、これは又何れも多少傷を刺戟する、それで先づ煮沸した水の外には、四%の硼酸水、五千倍の昇汞水、五十倍の醋酸礬土水を綿に浸して傷の上にたらす位ゐのことである、戰爭の場合に最初に消毒液を用ゐて、それから繃帶所に來て手當をした傷よりも、傷の付いたまゝで繃帶所に來て初めて手當をした傷の方が却て經過が良い、それで傷はなるべく、只乾いた殺菌ガーゼか脫脂綿を當て、血が止まつたならば直ぐ繃帶をした方が良いと云はれて居ります。この目的で繃帶を施す時には、石鹼と刷毛でもつてお湯で十分手指を洗つて、次で消毒液で手指を消毒することが必要である、その消毒藥は普通のアルコール、又十倍の昇汞水、リゾール、或はリゾホルムなどがよく用ゐられますが、ミークリッツ液は頗る便利でこれを消毒した刷毛に付けて、これでもつて十分手をこすつて、そのまゝ或は殺菌ガーゼで拭き取つて直ぐ手を使ふことが出來る、繃帶材料には、新しいガーゼ、煮沸した地の粗い晒木綿などを用ゐまして、アルコール或は昇汞水によく浸して置いてそれをしぼれば、ほゞ無菌の繃帶材料が出來ます、これを以て傷を拭き、或は傷の上に當てその上に脫脂綿を置いて繃帶を施しますが、一度用ゐたものは十分煮て消毒した上でなければ用ゐてはなりません、又餘り古い繃帶は用ゐてはなりません、不潔な品なれば繃帶を用ゐない方が却てましであります。

小さな切傷で血が止まつた時には、英吉利絆創膏をはつて置くのはよい、然しこれを用ゆる時は唾液を

つけたり水などではつてはならぬ、必ず石炭酸水とか、昇汞水とか消毒液でしめさねばなりません、倘絆創膏を張つた上にコロジユームを塗つておけば一層よろしい。

（以下次號）

家庭衞生

衞生雜信（一）

○付てトマス、カーライルは『健康の理想』に就き左の如く申し候。『奮勵活動しつゝある元氣横溢の時にも、決して健康の注意に就て忘るべからず。……健康の注意は蓋し人の最大事にして、良好なる健康は眞に人生の至寶とす。凡之世に完全なる健康に比すべき成功のあるなし、百萬の富も之に比すれば何かあらん。付てフランスの財政家は『何が故に睡眠を購ぐものなきや』と叫けびしかど、何れの市場にも之を求むること能はざりき』と。

○又申し候『至聖 holy と云ふ字の眞意義は、至健 healthy と云ふよりほか、他に良き定義の下すべきなし。完全なる健康とは身體精神共に健全なる狀態を指すものにて、畢竟、健全なる精神は又健全なる身體に宿るべき筈のものとす。斯る健全なる人の智能は、さながら研ける鏡の如く、其上に投射するあらゆる物體及び印像を明白に映出して、萬物の調和が凡て正確なるを示すものなり』と。

○今日は專門の時代に候。僧侶が匙をとり脈を測りし時代の遠き過去と消へ去りしのみに無之、一般醫學の中に於ても數多の分科と數多の專門とに分かれ各專門家はその各自の分科に於て、頗る畏敬尊重すべき進歩發達を示し居り候。醫學が此の如くなるを以て、患者も亦た此の如くならざるべからず、今日の患者は只一個の疾病に就てさへ各科の專門家を歴訪して其意見を徴し居り候。たとへば眼瞼に浮腫若くは發疹あれば、眼科醫も内科醫も、外科醫も皮膚

病専門家もすべて招聘さるゝと云ふ贅澤至極の有様に御座候。

○専門は大に可なり、然しながら之には一定の限界のあるものに有之、何事も専門でなければならぬと云ふは大間違ひの骨頂に御座候。蓋し人體各部の構造は互に密接に聯絡せるものに有之、決して之を獨立的完全なる小部分に細分區劃し難きものに候。又人體は夥多の小部分を取り集めて束ね合せたる集合體にもあらざれば、其各部〳〵を又その各部の専門家のみに委ぬるは危險至極の儀に御座候。要するに完全なる人、若くは完全なる健康とは、身體の内外各部が能く調和協同して聊かも相反かざるものに御座候。さればたとへ身體の或部分に疾病のあればとて、其部ばかりに注目せず、廣く全身各部に向て意を致さねば大なる過ちを招くことの有之候。

○現今に於ける疾病の多くが機能的であり、又神經性なることは毫も疑ひを容るゝの餘地これ無く候。種々なる想像と、妄念と、憂苦と、煩慮と、恐怖等とは、共に平地に波瀾を起し、あらぬ病勢を健康體内に高めて、盛に之を煽りたて居り候。實際、神經性の患者が年と共に増加するは、人の頭腦が餘りに過敏なるに坐するものと考被候。身體に眞に故障のある患者、すなはち器質的疾患と稱するものは、文明國ほど其數の少なきやう被思候。現に、神經衰弱症とか、ヒステリーとか、ヒポコンドリーとか、精神病とか稱するものは近年に至りて著るしく其數を増加致し候。或種の人士が『文明を以て疾病の携帶者』と考ふるも誠に無理ならぬ儀に御座候。

○今日の醫學は主として人を物質的にのみ研究いたし居り候。人が精神と肉體とより成り、肉體の健不健に對して精神が如何ばかりの勢力を有するかは、今日の醫學の毫も顧みざるところに御座候。然れ共かゝる醫學が未だ完全に人の健康を保護し能はざるは申す迄も無之候。精神は實に人の本源にして、物質的の肉體はその配下に屬するものにて候へば、吾人が肉體的に健康ならんと欲するには、先づ精神的

に健康ならざるべからず候。吾人が治療若くは衛生法を講ずる際にも、精神的に醫者の缺陷を補ふやふ心掛けざるべからず候。

○腦神經系統の組織は極めて複雜纖弱にして、其疾患も亦た諸種多樣に有之、屢〻身體各部を侵し、或は全身に其障碍を及ぼすこと尠からず候、神經の過敏は複雜なる社會の狀態に餘儀なくせられたる結果とは申しながら、蓋し文明人に多く缺點として數ふべきものと存じ候。今日の醫者は斯かる『神經の過敏を目して『神經性』と稱し、之を特殊の疾患とは思ひ居らず候。即ち無病健全の人にても過度の勤勉若くは勞作の後ちには、多少神經の疲勞を感じて、其興奮性を增し著るしく過敏となるを禁じ能はず候。併しながらこれ只一時の現象にとゞまり、十分なる休息若くは安眠により、直ちに平生に復するものにて候へ共、二六時中絕へず精神を勞し、休養の十分之に伴はざる時には、遂には全身の衰弱を招き、その極『神經衰弱』と云ふ入念の疾患となるものにて候。神經衰弱が新進文明國に多きは全く上記の理由に基づくものに御座候。

○晚近に於ける醫學進步の基礎をなせるものは、細菌學の發達と、消毒法の完備と、麻醉法の發見とに之有候。曾て疫癘の流行して之を防ぐの方法なく、只魔軍の荒にまかせし過去の慘劇も、今や一定の防禦を以て之に對し、確實に其病勢を挫き、若くは之を未發に防ぐに至れるもの、全く細菌學と消毒法との賜物と申すべく候。而して病根を採掘し、患部を切除し去るに當り、毫も苦痛を感ぜしめざる麻醉法の發見は誠に患者の一大福音に有之、外科手術或は之によりて進步し、治療の方針はこゝに舊套を脫して面目を改め申し候。病魔に對する悲痛と苦慮とは之により全く除去せられずと雖も、肉體的の疼痛が著るしく輕減せらるゝに至れるは、何人も異議なき所に有之、共に今日の醫學に向て讚辭を放つところに御座候。

○飢えたる獅子が食をあさり廻るが如くに、人の犠

性を要求せし　チフテリアも、天然痘も、チフスも、コレラも、結核病も、その他あらゆる傳染病も、皆醫學の襲撃に勢ひを失ひ、或は漸次滅亡に傾きつゝあるは、誠に心地よき次第に御座候。醫學が此の如き速度を以て進歩して止まずんば、人類があらゆる病魔を征伏して凱歌を奏するに至るも強ち架空の想像にも有之間敷候。然しながら茲に警戒を要すべきは神經性の患者が年と共に増加することに有之、世の識者は此方面に向て戰ふべき醫學的武器の必要を適切に感じ居り候。

○近來諸方に喧傳せらるゝ『精神療法』と稱するものも、此必要に應じて生れ出でたるものに有之、精神的影響によりて疾病を未發に防ぎ、或は既發の疾病を治せんと欲するものに御座候。精神の力は實に驚く可く偉大なるものに有之、常に元氣に溢れ、絶へず希望に滿ち、些々たる故障にくづれざる如き人には、其間接的作用により、病氣の經過もよく、全治までの日數も短かく、單に機能的(卽ち神經性)疾患の如きは精神の持ち様により直接迅速に治療するに至ることも有之候。學識經驗共に卓越せるジョン、ハンターと云ふ名醫は、實に左の如く申し候。『心の持ち様により病氣を起し得るが如く、又心の持ち様により之を治するを得るものなり』と。邦諺に『病氣は氣から』と申すも要するに此意に外ならず候。

○ベルンの名醫ドクトルバウル、ヅボーア氏は『神經性の病氣が屢〻精神病の前驅症なること』を主張し『神經性若くは精神的の病氣には精神的療法ならざるべからず』と申し候。氏は又『心の持ち様により吾人は實際或る種の病氣より免れ得るや、機能的の病氣は之によりて治癒するや、既に惱みつゝある神經性の病氣は之によりて驅逐排除せらるゝや』との疑問を設け、氏が多年の經驗より『實際然るものなり』と斷定を下し居り候。

○プロフェッソールラッド氏は『精神が身體に或る作用を及ぼすことは、明白なる事實にして毫も疑ひの餘地を存せず、されば古來の庸醫等は之を以て主

なる治療方針となし、巧みに患者の意を迎へしと雖も、學術的に醫學を研究せし學者は其經驗が精神作用の輕視すべからざるを立證し、心理學が精神力の偉大なるを敎ふるに拘らず、却て之を重大視せざるの觀あり」と申し候。

○病氣のために神經を惱ますことあるが如く、神經のために病氣を造ること、……然り自ら造ることの有之候。自然に發する病氣はつとめて之を免れ或は之を避けんと欲するにも拘らす、自ら病氣を私造して毫も怪まざるは現代人士の撞著と申すべく候。病氣を恐るゝ人よ、病氣より免れんとする人よ、乞ふ己れの頭腦より先づ病氣の觀念を去れよ。（以下次號）

處女の衛生

身體と精神の狀態は、年齡によりて、幾らか模樣が異つて居ります。それでありますから、其年齡に相當し、又男女によつても異る所の衛生法を知ることは大切なことで、小兒には小兒の衛生法を守らしめねばならぬ如く、少年には又それに相應したる衛生條件を注意せねばなりません。

以下少しく處女の衛生に就て述べて見たいと存じます。

處女が、思春期になると、血液性の病氣に罹り易くなります、時としては、この時期より早く或は晚く現はれることもある。

其病氣のうちでも著明なものは、萎黄病と名けらるゝもので、これは、通常十四歲から二十三四歲の間の處女に現はれて參りますが、其病性の惡いものになると、其後になつても、反復して發現することがあります。

萎黄病が、月華の開くと時を同ふして起ることは、最も屢ゝ見る處であります。斯かる場合は、概して疲勞、沈鬱等を訴へ、身體の動作に興味が湧かず、散步だとか、些々たる家の仕事でも、何とはなしに厭になつて來る。

駈けたり、階段を昇つたりするやうな、身體を劇しく用ゆることは、苦しさを增す基で、卽ち心臟の鼓動が劇しくなつたり、呼吸が切なく、且何とはなしに胸の中が狹くなるやうな感じをするに至る。

それと同時に病める人の表皮の色が變つて參ります。櫻色した花やかな處女も、後には、蠟のやうな色とかわつて參ります。褐色を呈した人でさへ、帶綠色に見えるやうになる。

一體粘膜は、他の皮膚の部分よりは、强く血の色がすき透つて見えるものです。それだから、健康の人では、其部分は、鮮紅色に見えるもです、併し萎黃病のときには、其紅の色がうせてしまつて、脣、齒齦・舌の如き部分は、蒼白色になつてしまうのであります。

萎黃病に罹ると、通常、處女の性質が變つて參り、少しのことにも、感じ易くなり、神經系統の方に其影響が現はれて來るものです。例へば今まで決して現はれなかつたものが、萎黃病になつたゝめ、其嗜好が異つて來たと云ふのは、神經性症狀の證據である、卽ち普通の人が好まぬ物質例へば咖啡豆、菁菜、卵殼、鉛筆、綿、白堊、炭等を好んで食べるやうなことがある。

食慾も多くは、減少し、或は、胃に劇しき痛みを起したりすることは、稀では無い。けれども其割合に患者は、痩せ細りもしませぬ、のみならず、多くのものは、却て脂肪を增して參ります。

前にも述べた如く、萎黃病者は、粘膜に參る血の量が、減少して來る結果、加答兒に陷る傾を起して參りまする例へば、感冒、眼結膜加答兒の如きものを起すことがある。

其他また生殖器粘膜の加答兒、卽ち子宮頸部の加答兒を起して、粘液性の膿汁が出て參るやうなことがあります。

其他に尙ほ萎黃病が、生殖器に影響を及ぼすことは、月信初めて現はれたる後、短時、又は長時、萎黃病に罹つて、月々の巡信を全く見ぬことがあつたり、

或は不規則に、或は遷延し、或は極めて幽微に現はれることもあります。

また、月華の開かぬうちに、萎黄病の現はれて參ることも稀とは申せませぬ、そのために月華の來潮することと晩く、娘の母親か心配して醫者の所へつれて參り、人工的に血液を外に出して貰ひたいことせまる。これは、身體の中に血が蓄積するために、萎黄病に罹るものと信じて居るからです。

萎黄病に罹つて後月華が、規則正しく現はれぬとか、或は初潮を見ぬと云ふ事柄は、自然の方則で、若し規則正しく月華が現はれるものとすれば、さなきだに貧血して居るものが、一層強く其度をますからである。

上文既に述べたる如く、萎黄病は、血液の疾病で、殊に重要の器官に、貧血を發起する所の疾病である。

（以下次號）

食事の注意　（水前）

胃膨滿の危險は、其採取する食物の種類にも大に關係します、肉や脂肪の類は、彼の馬鈴薯、野菜、菁菜、等よりもよし、最も惡しきは、アルコホール性飲料を度々過度に用ひることであります。強いビールなどを澤山飲むと其中に含まれて居るアルコホールが作用して、種々の害を招き、一方には只其量の大なるよりして、胃に惡い影響を及ぼします。

身體の弱き人、勞働少き人、殊に女子の如きは、習慣上、或は運動の關係上、少食するを例とすれば、其胃は、幾分小さい、所が何かの原因で、澤山に食物を喰べずに居られぬやうになると云ふと、胃の力は、既にその要求をみたし難くして、遂には、消化器全部に輕からぬ障碍が現はれ、其結果新陳代謝の作用が、大に鈍つて參ります。

單に榮養物の量のみならず、調理及び食事の方法にも大に關係があるから、此事にも注意を怠つてはな

りませぬ。即ち食物を咀嚼すると云ふことは、大切のことで、歯はこのために造られて居るのである。それでありますから、歯の效力を十分利用するならば、一つには食物の形が小さく砕かれたため、胃腸の中で、容易に其部の液汁と相混和することが出來るのと、他の一つには、口内で咀嚼せらるゝ間に、口中の唾液と食物とが、よく混ざり合つて、胃の方へ行くに際し、滑かで通つて參ることが出來る。

咀嚼を十分にせぬこと、即ち急いで食事をすますやうな習慣は、甚だよくない、早く御飯をすませたもの程行儀がよい等と云ふことは、食事の意義を解せぬからのことで、毎日三度の食事は闕かすことの出來ぬもの故、注意をするとせぬとの差が、健康上に及ぼす影響と云ふものは、極めて大なるものであります。

兎に角、よく咀嚼して、よく消化せしめると云ふことは、食事の第一義で、これを忘れては、健康が保たれぬ、食事をしながら、讀書をするやうなことも、決してよい習慣とは言へぬ。

咀嚼の意義が、右に述べたる如く、保健の上に必要なことである以上は、隨て歯の保護をすることは申すまでもないことである。されば歯のために惡い作用を惹き起す如きものは、努めてこれを避けねばならぬ。

榮養物の量に注意を要する如く、食物の溫度も、適當にしなければなりませぬ、熱きに過ぎ、冷きに失すれば、消化器の粘膜を害するのみならず、歯に對しても毒です。溶けたるもの、或は硬固なるものは、動物及び人間の器官に不利益を及ぼす。

あまりに熱き食物は、胃に損傷を起すことがある。又あまりに冷えた食物殊に、冷えた飲食ビールの如きは、胃の神經を害します。

食慾を得るために、食事の前に強い飲物例へば燒酎の如きものを用ふることは、彼の胡椒、芥子、多量の鹽等をとると一般害になります。これは、胃の粘膜を永く刺戟して、胃加答兒を起し、慢性にな

つて中々治りにくいことがあります。
食物の種類は、始終同じものをのみ選ぶと云ふことはよくありませぬ、時々種々のものを取交せて用ひる方がよろしい、純粹の植物性食物及び動物性の食物も共に大切なものであります。人間に對する自然的の榮養物は、動植物混合の食物でこれにも、種種の關係がある、卽ち齒の模樣、消化力の性質、身長と腸の長さとの關係等によつてそれ〴〵ちがひがある。
英國では、痛風、腎臟、血管石灰變性、癌腫等が多く發生するが、同國では、澤山肉を食べる、其他又盲腸炎を起すことが多い、併し植物性榮養も、また危險がある、卽ち蛋白質を採取するの量が、少ないと云ふことである。
生のものを好むは、惡い習慣の一つです、煮るか或はあぶるの手數を省いてはいけませぬ。これは、消化の上に利益があるからです、またこればかりではない、食物の中に或は外に含まれて居た有害の成分が、その爲めに消失してしまうことが出來ます。
例へば肉の中には、種々の寄生蟲が居ます、牛肉の中には、結核の黴菌或は窒扶斯菌が居ることも稀ではない、生水の中には、赤痢、窒扶斯、コレラの如き傳染病原の存することがあります。
生果又は皮殼なき果物、生の野菜等の中には、不潔物が含んで居ることがある、例へは街道の塵埃、鳥、蟲等が汚したり、或は手に觸れてよごれることもありますから、其等のため、諸種の黴菌が附著して居ります。
かかる榮養物は、食用に給せられる前に、注意して培養し、又常に皮殼を被つたものでなければ危險です。併しまた假令皮殼があつても、ただしは、實核がなくても、それでも腸を刺戟したり、或は盲腸炎を起す原因になつたりするから、餘程注意せねばなりませぬ。
其他食事の前に手を洗つて清潔にすると云ふことは、極めて大切のことです、料理屋や、茶亭に湯と

石鹸を供へぬことは、許すべからざることだと思ふ何故ならば、かかる所に寄る前には道を歩いて、家に於けるよりも、手が不潔になり易いからであります。手を食事の前に折角清潔にして置いても、食事に掛かる前に食べぬ品物、例へば書物或は雜巾等を觸つては、何の役にも立ちませぬ。

單に食事の時のみならず、始終身體殊に手を清潔にして置く習慣を小兒の間に、チャンと頭腦の中へ染みこまして置きたい、例へば學校の如き處に於ても、常にこの注意を與へられて、墨だらけになつたり、砂だらけになつた手を食事の前に洗ふことを忘れないやうな習慣をつけて頂きたい、兒童が辨當を食べる前には、是非とも手を清潔にするやうに注意と設備を何れの學校も實行して頂きたいと思ひます。既にこれ等の良習慣が造られて居る學校や家庭は、結構です。

これは單に外界の不潔物を身體内に浸入するを妨げるのみならず、身體を清潔に保つと云ふ考へは、延いては、精神の清潔を必要とするてだてにもなるからです。

（以下次號）



質疑

問• 本年三十二歳、身體は至て健かな方ですが、只祕結するたちで、よく下しの丸藥を買つて用ひて居ります、然し此頃はこれも餘り效能がなく、五日六日も通じがなく、別に變もありませんが、身體の爲に毒になるかと思ひますから快よく通じのつく最も善い藥、又祕結のなほる方法をくわしく御教へ被下度し。

府下　一會員

答• 祕結する、即ち便祕は種々の原因に由て起り、又生來の人もありますが、何れにしても餘り通じのないのは、よくない、下劑も澤山種類がありま

して、皆それ〲效能はありますが、同じ藥を久しく續けて用ひますと、實際慣れて來て、きゝが惡るくなるものであります、其上人に依て善くきく藥と、きかない藥があり、又同じ藥でも或人は何でもないが或人は腹が痛むといふやうなことがあります、先づ危險のない普通用ひられる下劑は硫酸マグ子シア卽ち瀉利鹽と稱して誰も知つて居る藥ですが、これは一日一〇・〇グラムから二〇・〇グラム位までを用ひます、これを水に溶かして三回に飮でもよいが、朝早く水で飮んで、少し運動すればよくきゝます、又蓖麻子油二〇・〇グラム乃至三〇・〇グラムを一回或は二回に飮む、但し何れも餘り飮好い藥ではありません、その他錠劑、丸藥、座藥數限もなく通じ藥はありますが、石鹼座藥、グリセリン坐藥もよくきゝますし、錠劑ではサクラダ錠などは美しくもあり便利であります、丸藥も澤山出來て居りますが蘆薈丸は善い丸藥で、餘り慣れませんが、妊婦は用ひられません、藥を飮むよりも水或は石鹼水などで灌腸する方がよい、これは自分で出來ます、又朝早く水を一杯飮む、或は御飯を拔きにして牛乳を飮むもよい、倘ほ野菜や果實を多くたべて適當に運動するがよい、又按腹すれば最もよい、これらの事については、詳細に説明致せばよいのですが茲ではさういふ譯にも參りませんから、此位の御答をして置きます。



○衞生事業功勞者の表彰

內務省にては曩に各縣に向ひ、地方衞生事業に盡瘁せし團體及び個人の功勞あるものを表彰せんとし、それ〲調査の上、書類申達方を命じ、過般地方長官會議の際、窪田衞生局長より各長官に對し、右

功績者の調査報告等を依囑し、續々申達し來るもの非常に多數にて、目下審査中なるが、尙ほ報告未達の分もある由なれば、之が發表は暫く後のことなるべきが、その表彰の方針を聞くに、當然衞生事務を掌るべき官公吏、其他金品の寄附者等に對しては別に褒賞の途あるを以て、今回の表彰は全く個人として衞生事業に盡瘁したるもののみを選拔する由にて、これに當るものは至て僅少の見込なりと。

○腸窒扶斯の猖獗

東京市に於ける腸窒扶斯の流行は、其勢 益々猖 獗にして、每日三十名內外の新患者を續發し、何時底止するやを知らざる有樣にて、駒込、本所、廣尾の三病院は既に滿員となり、去る八日夕刻大久保病院を開くや、直に二十三名の患者を收容したるが、同院も又一兩日中に滿員とならんとする模樣にて、目下の所これ以上收容する能はざるを以て、市はこれが應急策として警視廳と交涉し、中流以上の患者に自宅療養を許すこと、私立病院に患者收容を許すことの內諾を得、尙ほ患者を發生せる附近の堀井戶を使用するを禁じ、水道を敷くことを勸誘すると共に其工事も水道課と協議の上、特に急速に敷設することゝし、又嘗て豫算編成の際削除されし駒込病院擴 張 の計畫を復活し・約六十名を收容し得べき病室、其經費約五萬三千圓の增築案を十日の市參事會に提出し、通過の上は三週間位にて應急工事を完成すべしと云ふ。

○東京の慈善救濟事業

最近の調査に係る東京市に於ける慈善事業の主なるものを擧ぐれば左の如し。

▲東京市養育院　窮民孤兒の敎育及感化敎育を以て目的とし明治六年二月の創立に係り小石川大塚辻町にあり院長一人と百五十人の職員を有し目下男八百九十六人、女六百十八人合計千五百六人を收容せり。

▲東京府巢鴨病院　困窮者若しくは孤兒途上疾病者等にして癲狂患者の治療を目的とし明治十九年六月の創立に係り小石川駕籠町にあり一人の院長と二百

三十人の職員とを有し男百六十八人女二百三人合計三百七十一人を收容せり。

▲福田會育兒院　慈悲を旨として貧困無告の幼兒の救養敎育を目的とし明治十二年一月の創立に係り麻布區笄町に在り一人の理事長と二十六人の職員とを有し男六十八人女五十四人合計百二十二人の幼兒を收容せり。

▲東京慈惠會醫院　貧困患者の施療を目的とし明治十五年七月の創立に係り芝區愛宕町二丁目にあり一人の院長と百七十八人の職員とを有し男二十五人女二十六人合計五十一人の患者を收容す。

▲東京育成園　無告貧困孤兒を收容し遺憾なく其成長を遂げしむるを以て目的とし明治三十二年七月の創立に係り赤坂區青山南町六丁目に在り一人の園主と十人の職員を有し男二十六人女二十三人合計四十九人の孤兒を收容す。

▲東京出獄人保護所　無告の出獄人にして再犯の虞あるものを保護するを以て目的とし明治三年一月の創立に係り神田區柳原町に在り一人の主管者と八名の協議員と一人の補助者とを有し男四十五人女七人合計五十二人を收容す。

▲竹貫孤兒園　憐なる貧困孤兒を收容保育するを以て目的とし明治二十八年十一月の創立に係り府下豐多摩郡千駄谷町に在り一人の園主と三人の職員とを有し男三人女四人合計七人の兒童を收容す。

以上の七救濟所に於て收容しつゝあるもの總數二千百五十九人、内男千三百二十六人、女九百三十三人にして、其經費總額は收入四十七萬六百二十八圓六十二錢四厘、支出二十五萬三千百二十七圓七十三錢九厘なるを以て、その費用一人平均百十七圓二十四錢三厘の割合に當れりと。

西洋雜俎

○產兒の減少

西洋の文明國では、七十年このかた一般に產兒數が減少して來た。今獨逸國伯林に於て調べた所に據て

見ると次のやうである。千八百七十六年には、伯林の住民一千人につき四十九のお產(死產も含み)がある割合であつたが、千九百五年に至ては二十六にも滿たなくなつた。最近三十年間の分娩の數は更に著るしく減て居る、千八百七十六年には夫婦もの一千人に就て二百四十人の產兒あつたものが、千九百五年になつては僅に百十人しか無くなつたのである。伯林の夫婦もの丶間に出來た小兒が、如何なる割合に減少して來たかは、千八百八十七年と千八百九十七年の間を比較して見ると分かる。乃ち此の首府の居住者は、この期間に約七十プロセント增加して居るのに、初產はやうやく四十三プロセント卽ち九千九百九十二から一萬四千三百五に上つただけである二度目のお產はこれよりも多い割合で八千八百十六から一萬五百六十九に上ぼつて居るが、三番目のお產になると、住民の增加は非常なものであるのに、六千六百四十七から六千四百八十四に降り、第四回のお產は四千九百二十から四千七十まで減じ、五遍目のお產は三千五百七十一から二千五百九に減少して來て居る。尙ほ一夫婦より產れる六兒の數は二千六百三十二から千六百八十七、第七兒は千八百九十二から千三十八といふやうに減つて居る。斯樣に分娩數の著しく減じて來たといふものは、從來上流社會の習慣で小兒の數を制限することが、段々勞働社會にも行はれるやうになつて來たからであるといふことは疑のないことである。

大日本婦人衞生會記事

○山形支會總會

山形支會にては、四月二十九日、赤湯烏帽子山に於て總會を兼ね觀櫻會を催したるが、當日は新關副會長を始め五十餘名の出席者あり、簡單に式を了へたる後、各自觀櫻の間に十分の歡を盡して散會せり。

○本會役員會

本月十六日午後二時より、本會事務所に於て役員會を開き、總會其他の事項につき協議する所ありき。

○本會入會者

○荘司秋次郎紹介

●本郷區千駄木林町一九三　通常會員　生田藤尾子

○市原壽見子紹介

●東京女子高等師範學校附屬小學校内　通常會員　南部順子

○事務所申込

●北海道札幌區北一、西四北辰病院内　通常會員　下塚言子

○石栗させ子紹介

●府下豐多摩郡大久保百人町二四　通常會員　山内錦子

○事務所申込

●臺灣打狗鹽埕埔庄　通常會員　古賀みち子

●臺灣打狗新濱街　贊成員　今井武夫

●臺灣鳳山西門街　贊成員　相澤常太郎

○竹下梅子紹介

●臺南市竹口巷街己二一八　通常會員　篠田八重子

○事務所申込

●横須賀市逸見士　通常會員　杉本濟美子

○山形支會入會者

○河原たね子紹介

●　特別會員　本郷春子

○長谷部初子紹介

●　通常會員　山本さだ子

通常會員　松村いく子

○新潟支會入會者

○高田せん子紹介

●　通常會員　北村きい子

○轉居

●下谷區御徒町一ノ二五へ　篠八重子

●兵庫縣赤穗郡鯛屋村一六四へ　加藤雛子

●牛込區津久土前町十二へ　齋藤壽代子

●府下下澁谷村五八〇へ　梅津禮子

●千葉縣東葛飾郡福田村大字木野崎へ　西山廣子

●函館區惠比壽町七へ　藤野くら子

●山形縣飽海郡酒田町三六安田銀行支店内へ　古澤みれ子

●本郷區西片町十ほノ二四へ　丸茂むれ子

●本所區向島寺町レンズ製造所内へ　村山すへ子

●四谷區南寺町十三へ　宇野きよ子

●芝區龍門前町四へ　内藤千代子

●京橋區南小田原町四ノ六へ　高橋せい子

●千葉縣下國府臺衛戍病院へ　横井忠園

●臺北南門街龍匣口庄一七〇へ　速水ゑい子

●岐阜縣武儀郡管田町長尾本店内へ　長尾愛子

○改名

●舊名　染谷廣子

●改名　西山廣子

新案特許 一〇三六二號 衛生的なる改良かもじ發賣



本品の特長

一、根元にコロップを装置せるにより舊式のも軟らかなり

二、皮膚を摩擦すること少きゆゑ頭のはげる憂なし

三、頭痛癖ある婦人にも用ひて爽快を覺えしむ

四、二百度の熱蒸氣にて消毒しあれば毛髮の傳染病を媒介する憂なし

◉丸髷 金十五錢より金七十五錢迄

◉島田髷 金三十錢より金壹圓五十錢迄

◉銀杏髷 金二十錢より金六十錢迄

◉送料 各八錢

◉諸かもじ製造販賣 東京市神田區豐島町十七番地【振替貯金口座一八一八八番】田中金三郎

◉小賣特約店 京橋南傳馬町 大西白牡丹─本郷三丁目 兼康─淺草駒形 百助─淺草駒形 紅勘─神田區須田町 三井屋─日本橋通二丁 柳屋

特約店

神田區松本町三丁目 勝本治助
日本橋區田所町廿一 山三商店
同 横山町一丁目 安井治太郎
同 馬喰町三丁目 萬新商店

日本橋區若松町 松葉屋紋太郎
同 横山町一丁目 天野源七
同 馬喰町三丁目 阿部錠
同 ○橋町四丁目 角島村商店

日本橋馬喰町二丁目 飛川商店
同 横山町二丁目 江川小間物店
同 横山町二丁目 森本支店
外全國到る所の小間物店にあり

タカヂアスターゼ

●消化不良に就て熊本醫學専門學校長谷口博士は曰く、澱粉不消化の徴候たる胃の膨大疼痛、溜飲、腸内瓦斯蓄積、便秘、前頭部疼痛及下痢を生じ營養不充分なるが爲め筋肉及體力を喪失する者はタカヂアスターゼを用ひ快速に治するを得べしと、又本邦消化機病學の泰斗長與博士は曰く、予の實驗に依ればタカヂアスターゼは獨り胃の澱粉不消化を治するに有要なるのみならず慢性下痢に於ける腸不消化をも治するに適當なるを信ずと、

信ずべき統計に徴すれば消化不良の七割五分は實に澱粉不消化に起因すされば、タカヂアスターゼは胃腸障害に對する最も有力なる藥物なり。

タカヂアスターゼ發賣元三共合資會社は東京市日本橋區南茅場町より同區室町三丁目へ移轉せり從て當分本劑の包裝には新舊町名番地のもの混同して販賣せらる孰れも眞正品なり

世に幾多の摸造品及類似品あり●高峰博士發見のヂアスターゼを求めんには必ずタカヂアスターゼと御指定あるべし各地の信用ある藥舗にて取次販賣す



●消化力強大なるは總てのヂアスターゼ劑中タカヂアスターゼを第一位と爲す近く官報を以て發表せられたる本田博士の學位論文に徴するに坊間に販かる、多くのヂアスターゼはタカヂアスターゼに比し數倍乃至十數倍を用ゆるにあらざれば之と同効を收め難きなり、此くの如きは高峰博士の製法が他の總てに超絶して完全なるに由るものにして、これ以て一は眞正品他は摸造類似品たることを區別し得るなり、

タカヂアスターゼの説明書は發賣元たる東京市日本橋區室町三丁目拾番地三共合資會社へ御申越に從ひ無代郵送す

●營養增進の目的を以て虚弱者貧血者亦病者等にタカヂアスターゼを用ゆれば能く消化を佳良にし營養自ら增進し體力速に恢復するを見る、殊に肺結核患者に之を應用すれば其効力著明なりされば、大阪高等醫學校長佐多博士は曰く、タカヂアスターゼは予が數年來肺結核患者の消化補給劑として用ひ有効を認めたる所とすと、又在京の栗本博士は曰く今や予は實驗に基きタカヂアスターゼが結核患者の消化障害に對する著効を確認すと、柴山博士にも亦此目的にタカヂアスターゼを使用したる結果多大の良成績を擧けたることを公示せられたり

●藥効均等論は輓近醫學者間に唱道せらる、所なり、內務省横濱衛生試驗所長西崎藥學士の研究論文中に曰く、タカヂアスターゼは各購求の時日と場所とを異にするものなれども其糖化の効力は固よりグリカーゼの効力も亦常に一定せりどタカヂアスターゼの効力毎常一定なるは其特長なりこれパークデビス社の如き規模の宏大なる者に於て始めて見るべきのみ。

用量は一回〇・一―〇・三錠劑(〇・一―三)なれば一錠―二錠毎食後直に投與すべし而して此用量はタカヂアスターゼにのみ限ることを特に言明す

會員募集

●本會ハ明治三十五年ノ創立ニシテ今ヤ其ノ第九年ニ逆セリ●本會ハ神經系統及精神ノ生理的病理的講究ヲ目的トス●入會希望者ハ氏名住所ヲ詳記シテ速ニ申込マレタシ

本會雜誌ノ特色

●本會雜誌ハ獨リ醫學ノ圈內ニ止ラズ心理學、敎育學、病理學、人類學、社會學、動物學等ニ於テ神經及精神ニ關係アルコトヲ悉ク網羅ス

●本會ハ毎年我國ニ於ケル神經學ニ關スル邦文獨逸文、兩樣ノ論文及演說等ヲ悉ク網羅シテ神經學年報ヲ編纂ス、是レ本邦ニ未曾有ノ擧ナリトス

●本會雜誌ニ揭載セラレタル原著、及實驗例ハ之ヲ獨逸文ニ飜譯シテ廣ク外國ニ紹介ス

●本會ハ內國醫學會中殆ド最大多數ノ會員ヲ有シ其雜誌ハ毎號二千部ヲ月刊シツヽアリ

●本會ハ毎月二回機關雜誌「神經學雜誌」ヲ發行シテ會員ニ頒ツ●本會ハ毎年一回總會ヲ開キ學術演說談話討論等ヲ行フ●會員ハ會費トシテ一ケ年金貳圓五拾錢ヲ納附スルモノトス

神經學雜誌ノ內容

●本會雜誌ニハ左ノ諸學科ノ範圍ニ於テ神經系統及精神機能ニ關スル內國及海外事績ヲ網羅シ原著、實驗、臨牀講義、纂說、抄錄、治療、統計史談、傳紀、雜錄、學會、新著批評、文籍目錄、通信、雜報、官令等ノ諸欄ニ分チテ之ヲ載錄ス

解剖學、生理學、心理學、病理學、神經病學、精神病學、法醫學、衞生學、臨牀醫學、細菌學、藥物學、毒物學、敎育心理學、敎育病理學、人類學、社會學、動物學、獸醫學

本會雜誌ハ其ノ紙數毎六百頁乃至七百頁ニ上ル

日本神經學會

主幹

醫學博士三浦謹之助●醫學博士吳秀三

事務所

東京市本郷區駒込淺嘉町三十五番地

ドクトル富士川游先生序　千日亮先生　安井洋先生共著

輓近育兒法

全一冊

精巧畫插入
菊判洋裝美綴
紙數三百五十頁
正價壹圓貳拾錢
郵稅八錢

誕生より學齡期前まで

●編末に高島平三郎先生の兒童心理學に關する著述の二節を關錄として掲載しあり

幼兒の成長するに當り其心身は如何に發達すべきか此等の發達を妨ぐるものは如何なるものであるか保育上最も注意を要すべきことは何であるか學齡期以前に於ける純潔無垢なる神の如き幼兒の天性は如何にして之を養護發達せしむべきか世の多くの親達は此等の幼兒を育て損こねて居ることはなきか家庭教養と幼稚園教育との如何兒童精神作用の健否等苟くも多少此等の事に心を用ひらるゝ世の父母たる者未來の父母たる者幼兒教育者及女子教育家の如き先づ以て本書を繙くべきである

發行所　東京市本郷區龍岡町（振替貯金口座東京四一八番　電話下谷一六七二番）吐鳳堂書店

私立

東京女醫學校生徒募集

●五月一日新學年開始●入學資格高等女學校卒業者に限る●入學願書提出期限四月廿八日迄

●東京牛込區市ケ谷河田町●電話番町貳〇一九

私立大日本婦人衛生會 山形支會規則

第一條 本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條 本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公選し幹事評議員は會長之を選任す 役員の任期は一ヶ年とす●第三條 本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の選擧庶務會計の報告をなす●第四條 入會せんと欲するものは宿所姓名竝に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條 本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條 服裝は精誠質素なるを要す上著羽織は絹布を用ゆるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅籠町新築西通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會 宇都宮支會規則

第一條 本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第二條 本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公選シ評議員幹事ハ會長之ヲ選任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條 毎月一回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改選庶務會計ノ報告ヲナス●第四條 入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脱會又ハ本會ヲ退會セントスル件ニハ其旨事務所ニ屆出ヅベシ●第五條 本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條 本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條 講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又タハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條 服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上著羽織ハ絹布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條 特ニ支會規則ニ揭ゲザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

事務所宇都宮市傳馬町三十三番地、行森氏方

明治三十四年二月三日創立 宇都宮支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





○本會徽章料左の如し

○通常會員章

第參號

メツキ製拾貳錢、送費六錢

第貳號

正銀製四拾錢、送費六錢

○終身及特別會員章

第壹號

七拾錢（黑塗箱入送費九錢）

六拾錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會竝に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

○入會注意

○御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とし必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收人差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なし御納附相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京麴町區富士見町郵便局）宛振出しあるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

○會員御紹介

下され候御方には其人數丈の本會雜誌を進呈す

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾四圓半頁其二分一以下同之　本誌一部定價貳拾錢

發行所　東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地　私立大日本婦人衛生會（振替貯金口座東京一〇六〇〇番）

編輯兼發行者　東京市本郷區駒込追分町三十番地　荘司秋次郎

印刷者　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　今井甚太郎

明治四十三年五月十六日印刷
明治四十三年五月二十日發行　（毎月一回二十日發行）

印刷所　東京市本郷區駒込 [illegible]